

「アクティブハイスクール」の研究がスタートしました。平成19年度の研究テーマは、「フロンティアハイスクールの継承発展とコーチング技法の導入」です。

(1) **コーチング技術の導入**に関する取り組み

①教員対象コーチング研修会の実施, ②コーチングの手法を取り入れた生徒面談, 三者面談の実施

(2) 教科の指導力向上の取り組み

①コーチング技法を取り入れた指導法の研究, ②「笠商学」の確立, ③**指導法の工夫と授業改善**のPDCAサイクルシステムの構築と指導体制づくり, ④**授業評価アンケート等を通じた指導力向上**の取組, ⑤授業公開の推進, ⑥グループ学習, 自学自習の推進と少人数指導, 習熟度別授業の発展

(4) 評価と検証の取り組み

①検証のための学習状況調査及び授業評価の実施, ②学校自己評価の実施, ③学校評議員による評価

■当面の日程について、お知らせします。

◇**コーチング職員研修会 (第1回)**

日 時	7月6日(金) 13:00~16:00 (予定) ※期末考査2日目の午後	
場 所	会議室	
対 象	本校教職員・全員 ※当日出張などで不在の場合は、事前にご連絡ください。	
講 師	(株)西日本ジャテックス・専属講師	
内 容	①「コーチングとは」※コーチングとはどのようなものかを理解する。 ②「コーチングとは」※GROWモデルについて理解し、実践する。 ③「コーチング技術基礎」※SL理論による4つの発達段階に応じた質問スキルの理解と実践。	

◇**コーチング生徒リーダー研修会 『ブランドショップでお買い物』**

日 時	7月30日(月) 9:00~12:30 (予定)
場 所	吸江会館・多目的ホール
対 象	1年生学年委員会 (16名), 2年生文化祭・正副店長 (10名) ※先生方も参観ください。
講 師	(株)西日本ジャテックス・専属講師
内 容	ワークショップ『ブランドショップでお買い物』 ※リーダーを中心にメンバーで協力して、バラバラの情報を集約し、地図を完成させる。
ね ら い	①チームの目的のために、自分の欲求を抑えて、メンバーの意見を取り入れることの大切さを学ぶ。 ②積極的な取り組みの大切さを知る。③効果的な情報発信の方法を学ぶ。④これらのことを学園祭前に学び、学園祭の運営に活かすことができる。

◇**生徒リーダー研修会 《皿まわし組織論》～「起業家精神」で生徒会活動を楽しむ**

日 時	7月13日(金) 13:00~16:00 (予定)	
場 所	吸江会館・多目的ホール	
対 象	生徒会総務 (10名), 体育祭・文化祭実行委員 (10名), 3年正副ブロック長 (10名), 3年正副団長 (10名) /合計 40名 ※先生方も参観ください。	
講 師	NPO法人「楽知ん研究所」代表 宮地祐司氏	
ね ら い	ものの見方や考え方, 発想法を、皿まわしを自分で回しながら体感し、イメージをつくっていく。この〈皿まわし組織論〉をただ読むだけでは、書いてあることがピンと来ないかもしれません。しかし、自分で新しい組織をつくったりする時、つまり何かを起業する場合には、とても役に立つことは今までに確認されています。	

「アクティブハイスクール研究事業」の柱のひとつに「**コーチング技法の導入**」があります。

ここ数年、日本の企業で広まってきた「コーチング」という考え方は、「人間の個性を尊重し、伸ばしていく」という発想に基づいています。相手に一方的に目標を与えたり、解決方法を指示したりするのではなく、質問をすることにより相手から答えを引き出すという手法です。これは大人の世界だけではなく、子どもに対しても非常に有効です。教師のコーチング力向上に取り組み始める公立・私立の学校が増えてきています。

『〈最高の能力〉を引き出すコーチングの教科書』より

「第1回・コーチング職員研修会」を、先週7月6日(金)の午後に行きました。期末テスト中のお忙しいときで申し訳なかったのですが、35名の方の参加をいただきました。

今年度の3回の研修は、(株)西日本 JATEX にお世話になります。今回の講師として、古垣みゆき・有吉聖治の両氏においでいただきました。

アイスブレイキングの後、前半は「コーチングの基本的な考え方」についてお話いただきました。後半は、「GROWモデルでの面接」「傾聴してもらえないと…」といったワークを入れながらの説明で、各テーブルで笑い声が出ながらの研修となりました。3時間余りの研修が短く感じられるほどの内容でした。



■ 研修会の評価

1) 今日のコーチング研修は楽しかった →平均 **4.1**, 5&4=**81%**

5 4 3

2) コーチングについてよく理解できた →平均 **3.9**, 5&4=**70%**

5 4 3

3) 生徒・保護者との対応に役に立つ →平均 **4.1**, 5&4=**78%**

5 4 3

4) より深く学習したくなった →平均 **3.9**, 5&4=**74%**

5 4 3 2

5) 講師の説明は分かりやすかった →平均 **4.3**, 5&4=**89%**

5 4 3 2

「楽しい研修にしてください」と講師の方に事前にお願ひしていたのですが、評価もよく、みなさんに満足していただけたのではないのでしょうか。

■ 感想から

◆たくさんの気づきがありました。笠商にとってとても必要な研修会だと思います。もっと多くの先生に聞いてほしかった。この考えを取り入れてほしい先生は、私を含め多数いると思います。



◆職員研修の〈悪いイメージ〉を壊すものだった。よく工夫された内容で、飽きることもなく、最後までひっぱってもらえた。次回も期待大です。

◆今日だけでは、「なんとなく分かった感じ」なので、続けてやっているといろいろと知りたくなるような内容でした。「押しつける」でなくて、「選択肢を与える」のが大事だということが分かりました。あと、「いやな聴き方」は分かりやすかったです。

◆新鮮に感じた。

◆面談の進め方については、もう一度考えてみたい。

◆コーチングの基本姿勢②の、「性善説・性悪説」について、自分自身が間違った知識を身につけていたことを発見した。「人は生まれつき怠け者である。だからこそ(性善説)に立つて…」ということにつながると感じていました。

◆なかなか難しかったが、勉強になった。実践できればと思う。

◆時間を創る重要性を感じました。時間がないと、なかなか生徒と向き合えませんね。あらためて、自分の生徒面接には不備があると思いました。

◆クラス・学年という集団のくくりの中でのコーチングの意味。集団と、個人へ寄り添うことのバランスについて、やはり個人に焦点を当てることでしょうか。

◆面白く受けられたが、自分にできそうかと言われると、不安である。



S L 理論の「D2」「D3」の生徒の状況を考えてくる。
 D2: 適正能力もなくやる気もみえない生徒
 D3: 適正能力はあるのに、やる気がなく、先生の言うことに耳を傾けようとしない生徒

さて、次回は2学期中間考査中の10月22日(月)を予定しています。宿題がありました。

研修が近づいたらまたお知らせしますので、よろしくお願ひします。

先日7月13日(金)の午後に「リーダー研修会」を実施しました。NPO 法人「楽知ん研究所」代表理事・宮地祐司先生を講師に、「《皿回し組織論》～(起業家精神)で生徒会活動を見る」という演題でお願いしました。宮地先生には名古屋からはるばる笠岡までおいでいただきました。

受講者は、生徒会総務、文化祭・体育祭実行委員、正副ブロック長、正副団長、1年生のHR委員のみなさん、あわせて36名。そして先生方も10名ほど参加していただきました。

研修会はず、宮地先生のパフォーマンス(手品)とアイスブレイク(スタンディングオベーション)から始まりました。のっけから「おーっ!」と驚きの連続でした。

そしていよいよ《皿まわし》! 初めは3～4人しか回せなかったのに、「皿まわしの極意」を5分ほど教えてもらうと、ほとんど全員が回せるようになりました! 「伝達可能な科学技術」というものが、確かにありますね。そしてこの「皿まわしの極意」が「組織を動かすリーダーの役割」を教えてくれるものでした。

皿回しの極意

- (1) 皿に《うまい束縛》をする
- (2) 皿に《キッカゲ》を与える
- (3) 皿に《あわせる》
- (4) 皿に自由に回っていただく

皿が回せるようになると、なぜか楽しい。こんどはいろんな皿を回してみようということで、小ザル・大ザル・上級者用の皿などにチャレンジ! 皿を回しながら交換したり、鼻の上で回したり…。



後半は「皿回しの名人と達人の違い」「多くの人に《笑顔の流れ》を広げていく楽しさ」について話していただきました。「こんなふうな皿を回すと楽しいよ」とみんなによびかけて、「n段皿回し」のしくみを作っていくのが「皿まわしの達人」でした。生徒会活動や体育祭・文化祭を進めていくときの、大きなヒントをいただいたように思います。

最後は、「《何かをはじめめる中心メンバー》の心得¹⁾マッキーノ」と、全員で²⁾「バンジーチャイム」の演奏。「バンジーチャイム演奏のしくみ」さえ作っておけば、日本中のあちこちでたくさんの人が演奏を楽しめるのですね。「他人の笑顔を広げる仕事が自分の喜びになる」という視点で、3時間の研修会が貫かれていたように思いました。



- 1) 4×4=16マスにキーワードを書きます。先生が示したカードとおなじものがあつたらチェック! マッキーノはピンゴに似ているけど、でもピンゴじゃあない。
- 2) 音階に合わせて切った真鍮の棒を、落として演奏する楽器です。

《何かをはじめめる中心メンバー》の心得

- ◆ 中心メンバーは皿回しの棒である
- ◆ 中心メンバーはまちがいがなく得をする
- ◆ 組織は自分でつくるもの
- ◆ したくないことはせざる
- ◆ 正義のおしつけがダメにする
- ◆ 勝手な思い込みは禁物
- ◆ 「一人の百歩は百人の百歩」という仕事がある
- ◆ 会議の始まりは定刻主義で
- ◆ 煙突の役目を
- ◆ 情報を共有しよう
- ◆ 他人の仕事を評価する
- ◆ 模倣は創造のはじまり
- ◆ プロセスを楽しもう!
- ◆ 8割よければ大成功!

■ 研修会の評価

1) 楽しかった? →平均 4.97, 5&4=100%
 5 4

2) ためになった? →平均 4.97, 5&4=100%
 5 4

■ 感想から

◆ 僕は副会長なので、今日は本当によい経験になった。僕は、引っ張っていくのではなくて、きっかけを与えるのが僕のいちばんの仕事なんだと思った。後期生徒会をよいものにしていき、最高の高校生活にしていきたいです。本当にありがとうございました。
 (Hくん)

◆ 初めての楽器で不思議だったけど、落とすだけで音が出るところにビックリした。みんなで一つの音楽ができて、とても楽しかった。
 (Hさん)

◆今日教えてもらったことをクラスの人に話してみたいと思います。これから自分を見直して、みんなを支えられるまっすぐな棒になりたいと思います。今日は血まわしも最後の合奏もとても楽しかったです。ありがとうございました！（Tさん）

◆血回しでは、最初ぜんぜん回りませんでした。でも練習をしたら回るようになり、とても楽しかったです！努力を積み重ねることは大切！たくさんの人で何かをすることはとても楽しかったです。最後はとてもキレイな音色でびっくりしました。これからいろいろなことに積極的に参加し、自分のためになることを経験していきたいです。（Hさん）

◆題名だけ聞いて、何をするのか分からなかったけど、いろんなことをしていくうちに、今日のテーマが分かって、どうやっていけばいいのかが分かりました。リーダーは難しい役目ですが、せいっぱい頑張って、いい思い出にしたいです。（Kさん）

◆血回しがとても楽しかったです。私も、名人ぢやなくて、達人になりたいと思いました。（Kさん）

◆今日は遠いところから笠商に来ていただいて、本当にありがとうございました。今日は本当にためになることばかりで、内容もとても楽しかったです。血回しについて、たくさん考えさせられました。みんなに認められるようなリーダーを目指して、これから成長していきたいです。今日は本当にありがとうございました!!!!（Hくん）

◆みんなをまとめて動かしていく難しさ、大変さがよく分かった。リーダーはそう簡単につとまるものじゃないし、一人にまかせきりもよくない。皆でうまく協力しながら一つのものを作り上げていくことが大切だと思った。（Sさん）

◆名人と達人は違うってことが分かったし、達人になれるように頑張る。人によって考え方は違うし、それをうまく血を回して利用するという発想を勉強できたし、それを頭に入れて体育祭などを成功させていきたいと思いました。（Sさん）

◆単なる血回しから、たくさん組織論が生まれてきて、とても楽しかった。一人の名人や達人から、他に人にどんどん血回しが広がっていくことを勉強し、自分たちもそういった活動ができることを目指したいと思います。（Yくん）

◆今日は今まで思っていたリーダーや長のイメージが全く変わりました。この血回し組織論の考え方で、体育祭を成功させていきたいと思います。（Sさん）

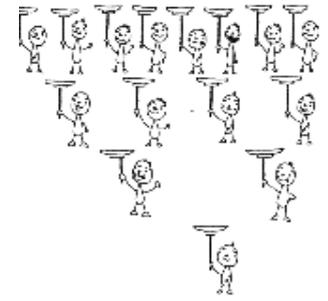
◆リーダーの役割の見方が、またちょっと変わった気がする。いろんなリーダーの考え方があると思うけど、やっぱり一人だけじゃ大きな組織や団体は成り立たないし、たくさん人がいる意味もなくなってしまう。やっぱりみんなで一つのことをやるって大事なことだ!!（Sくん）

◆リーダーとは何なのか？ 組織とは何なのか？ 様々な事が、今

まで僕が考えていたことと違い、ためになった。この「血まわし組織論」を、学校や様々なところで役に立てたい。（Wくん）

◆最後のやつ（バンジーチャイム）もたのしかった!! リーダーや長のこともいっぱい知れてよかった！ また機会があればいろいろ考えてみたい。（Kさん）

◆とてもいい講義だった。「リーダー」というものの考え方が変わった。何より、楽しむことが大切だと思った。体育祭・文化祭に生かしたい。（Hくん）



◆今日はとても楽しい時間を過ごすことができました!!!! 1年の時、私は似たようなことをしたのですが、3年になってまた新たに気づいたこともありました。生徒会総務として、笠商のいい棒になりたいと思いました。（Kさん）

◆最後の「喜びの歌」はとても楽しかった。みんなでやったらとても盛り上がる。またやりたいです。血回しが苦手なので、上手になって名人になりたいです。（Oくん）

◆血回しはみんなができると感動しました!! コツをつかめばできると思いました。最後の音楽はみんなで一つの曲を演奏して、感動しました。体育祭もみんなで感動するものを作りたいです。（Uさん）

◆最後、シビれました~!! すごくよかったです。①②③④のやつは、父親からも教えられていて、僕はビジネスオーナーを目指しています。バカにされるだろうけど、がんばっていきたいです。ありがとうございました。（Iくん）

◆とても楽しかった。「心得マッキーノ」を忘れず、体育祭・文化祭をがんばりたい。達人になれたらいいです。一つのことをみんなでするとすごい気持ちいいし、達成感があつた。（Mさん）

◆今日一日、楽しくおもしろく、リーダーの在り方を学べて、本当にためになったと思う。今までの自分のことを考え、これからの自分について考えることができ、よかった。ありがとうございました。（Oくん）

◆今日のことを忘れず、副団長としてがんばっていききたい。みんな協力してやったぶんだけ、感動も大きいと思う。「心得マッキーノ」はこれからとても役に立つと思った。（Yさん）

◆今日はリーダーになる上での心得などが、本当によく分かってよかった。いろんな実習もあつて楽しかった。今日学んだことを、今後、人の上に立つときなどに生かしていきたいと思った。（Hくん）

■ 1・2年生リーダー研修会

笠岡商業高校が今年取り組んでいる「アクティブハイスクール研究事業」の一環として、7月30日(月)に、リーダー研修会を実施しました。今回は、10月の文化祭に向けて、2年生の店長・副店長(各クラス3名)と、1年生のHR委員・評議員(各クラス4名)に参加してもらいました。各ブロックごとにグループを組んでもらったのですが、Bブロックは1年生がいないので、文化祭実行委員(3年生)の代表4人に入っていました。

講師は、(株)西日本 JATEX の有吉聖治さん・長江由美子さんにお願しました。

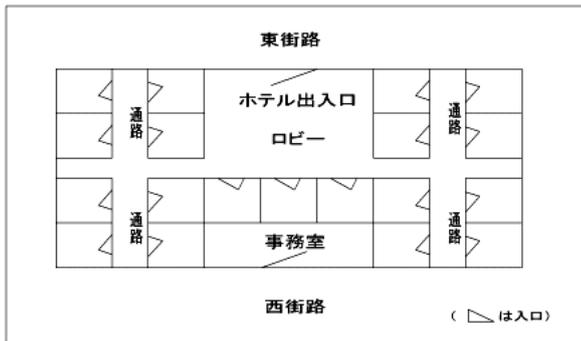
まず、「あいこでじゃんけんゲーム」で、「目標を達成するために、情報を交換することと、リーダーが必要なこと」を体験的に学びました。



【ブランドショップでお買い物】

この日の中心的な活動はワークショップ『ブランドショップでお買い物』でした。ショッピングモールに関する情報が、グループのメンバーにバラバラに渡されます。「持っているカードを他人に見せない。言葉で伝える」というルールの下、グループ内で情報を交換して、制限時間30分でショッピングモールの地図を完成させるというものです。

(問題図)



1年生・2年生の枠を越えて、協力しながら地図を作っていきます。中でも、リーダーがうまく情報の交通整理をしたところ・全員が積極的に発言したところが、早く地図を完成していました。

リーダー研修会をして、2年生との距離も縮んだ気がする。少数派だからといって無視していたら、正しい答えまで逃してしまうかもしれない。少数派の意見もちゃんと聞かないといけないなあと思った。

(3年・Kさん)

今日は少数派の人の意見を取り上げることや、自分の意見をはっきりということの大切さを知りました。文化祭では副店長として、みんなをひっぱっていきたいと思いました。

(2年・Yさん)

リーダーとしてどうみんなをまとめればいいのかなどが分かった。多数決で決めるのはいいが、少数派の意見もちゃんと聞いて取り入れていってあげないといけないと思う。

(1年・Wくん)

【アサーション：自分も相手も大切に自己主張】

研修会最後の1コマは、『アサーション・効果的な伝え方』というワークでした。「NO：ノー」を伝えるとき、①アグレッシブ(攻撃的)に言い過ぎてしまって相手を傷つけたり、②パッシブ(受動的)でなかなかNOが言えなくて自己嫌悪に陥ったり…、ということがよくありますね。そのどちらでもない、第3の方法が「アサーション：自分も相手も大切に自己主張」でした。そのポイントは

- ・〈私メッセージ〉を使う
 - ×「電話くらいしろよ!」
 - 「連絡がないから、私は心配したよ」
- ・〈代案〉を用意する
 - ×「間に合わない。ゴメン…」
 - 「もう一日あればできそうだよ。どうかなあ?」
- ・〈具体的に〉言う
 - ×「もうちょっとまじめにやってよ!」
 - 「道具集の材料集めを手伝って欲しいんだ」
- ・〈肯定的に〉考える
 - ×「そんな意見は無理だよ!」
 - 「ここをこう変えたらうまくいきそうだよ」

この「アサーション的な表現」は、コミュニケーションを円滑に進めるのにとっても有効です。学校生活だけでなく、将来、社会人になったときにも役立ちそうです。



アサーションという3つめの話し方を理解することができました。今後、この話し方を意識して話していきたいと思います。

(3年・Mくん)

話し方一つで相手に与える気持ちもぜんぜん違うと、改めて思った。店長になったんだから、話し方は今以上に気をつけようと思う。

(2年・Hさん)

● 研修会の評価 (5段階)

→平均 4.6, 5&4=93%

5 4 3 .

今日のリーダー研修会で学んだことを、今後の生活で役立てていけるように努力したいと思いました。1D・Fさん④

けっこう人生に役立つことが多かった。ゲームを通じて、情報の大切さやその情報を説明する発言力がいかに大切かがよく分かった。1D・Iくん④

今日はこれからのクラスのみんな、学年のみんなをまとめていくために必要なことがいろいろと学べて良かったです。すぐに多数決ではなくて、少数意見にも耳を傾けて、いろいろ決めたりしていきたいです。1A・Tさん⑤

リーダーになる上で知っておきたい大切なことを学ぶことができた。ゲームでは一人ひとりが所有している情報を出し合い、いい感じで進行できた。とてもためになった時間だった。1A・Yくん③

リーダーとしての役割やありがたさを再認識することができた。この会を生かし、文化祭・体育祭も生徒全員で協力しあい成功させていきたい。3D・Mくん⑤

アサーションという3つめの話し方を理解することができました。今度この話し方を意識して話していきたいと思います。3E・Mくん⑤

今日話を聞いていて、言葉はすごく難しいんだなあと思いました。いろんなゲームとかがあってもおもしろかったです。今日聞いた話は、すごく役にたつと思いました。2B・Hさん⑤

アサーションというのは自分と相手のどちらともを大切にすることができるので、いい伝え方だと思いました。自分が思ったことをすぐ口にするのではなく、考えて話したらいいと思いました。これからも役に立てていきたいです。2B・Kさん⑤

リーダー研修会に参加して、2年生との距離も縮んだ気がする。少数派だからといって無視していたら、正しい答えまで逃してしまうかもしれない。少数派の意見もちゃんと聞かないといけないなあと思った。3C・Kさん⑤

今日は普段学べないリーダーとしての勉強をすることができて、とてもよかったです。今後は学校のリーダーとして二大行事を成功させる！ 3C・Tくん⑤

やっぱり協力するとか話し合いは大事だと思った。そのためには一人一人の信頼関係が大切だと思った。2D・Kさん④

グループで協力して意見を出し合ったりしたこと、いろいろ勉強になった。先輩たちと協力できて楽しかった。1D・Oくん③

ゲームがタノ仕方。今日学んだことを生かして、みんなをしっかりとひっぱっていきたいです。2E・Fさん⑤

初めてリーダー研修会に出て、緊張してたけど、みんな楽しく勉強できて、とても役に立つ情報ばかりで、充実した時間を過ごせました。2E・Nさん⑤

話し方一つで相手に与える気持ちもぜんぜん違うとあらためて思った。店長になったんだから、話し方は今以上に気をつけようと思う。2E・Hさん⑤

多数派の意見ばかりにとらわれず、少数派の意見もしっかりと聞き入れることが大切だということが分かった。2A・Tくん④

最初はどやってまとめるればいいのかわからなかったが、話が進んでいくにつれて、考え方やとらえかたが分かったのでよかった。今日はとてもためになる3時間だった。2A・Mくん④

相手が傷つかないように言葉を言い換えるのが、思ったより難しかった。リーダーがいることで効率よく話し合いが進み、役割を分担することで早くできる。少数派の意見が大事。2D・Iくん⑤

ちこくしてしまったけど、情報を共有することの大切さと、話すときの表情や言葉に気を付けることを学ぶことができた。1A・Kくん④

体育祭や文化祭でみんなをひっぱっていくためのいろんなコツが分かってよかった。いろいろ勉強になった。1C・Tさん④

今日は、少数派の意見を取り上げることや、自分の意見をはっきりと言うことの大切さを知りました。文化祭では副店長として、みんなをひっぱっていきたいと思いました。2C・Yさん⑤

まだ文化祭のことなど、具体的なことが決まっていなくて、今日学んだことを生かしなが、店長としていいものを作ればいいなと思う。2C・Kくん⑤

文化祭でみんなをまとめるときの言い方などが分かってよかった。がんばっていいものにしたい。1C・Sさん⑤

一人に仕事を任せて、他の人は無責任ではダメだと分かりました。やっぱり一人ひとりが自分の意見を言わないといけないと思いました。1C・Tくん⑤

このリーダー研修会で、身近なことだけど今までできていなかったことを知ることができて、とてもよかったし、勉強になったと思いました。意外にとってもおもしろかったです。1C・Sくん⑤

自分のためにとてもなった。これからもクラスの中心として、みんなをひっぱっていこうという気持ちになれた。1B・Hさん④

これまでこういうことにまったくふれたことがなかったので、話を聞いてとてもよかったです。新しい考え方などが身につきました1B・Bさん⑤

今日のリーダー研修会を通して、情報を共有することや効果的な伝え方について、よく学ぶことができた。1B・Hくん⑤

リーダーとしてどうみんなをまとめればいいのかなどが分かった。多数決で決めるのはいいが、少数派の意見もちゃんと聞いて、取り入れていかなければいけないと思う。1B・Wくん⑤

「1学期授業評価アンケート」の結果から「授業改善」にむけて

「アクティブハイスクール事業」の一つの柱は『コーチング技法の導入』ですが、これについては7月6日(金)に「第1回コーチング職員研修」を開き、楽しく有意義な研修をすることができました。

もうひとつの柱は『授業評価アンケート等を通じた指導力向上の取り組み』です。学校教育の中心となるのは何と言っても日々の授業です。1時間の授業を終えて「今日は生徒の反応もよく、手応えがあった」という時には、教科担任として何とも言えない充実感があります。「いい授業をしていく」ことが、何より生徒のためであるとともに、笠商がさらに前進していくための原動力になっていくと考えます。



● 1学期授業評価アンケートの実施

7月2日(月)～4日(水)で、「1学期間の生徒授業評価アンケート」の実施をお願いしました。期末テスト前の忙しい時期にもかかわらず、全講座の約1/4に相当する56講座について実施していただきました。

(1)目的

- ・「生徒による授業評価」を実施することにより、各教科担任の授業改善、ひいては笠商の教育向上につなげていく。まずは1学期の各科目の授業評価をとる。
- ・アクティブハイスクールの研究資料とする。

(2)方法

- ・7/2(月)～4(水)の授業の最後で、10分程度の時間をとって、「マークシート方式」で実施する。
- ・できれば全科目・全クラスで実施したいが、強制するものではない。
- ・「1学期授業評価アンケート」用紙(裏面に様式)は、係が用意する。(A4版・更紙)
- ・スキャナー・コンピュータで「自動読みとり・集計」し、出力したEXCELファイルは係が保管する。
- ・教科担任は集計結果・感想から授業改善の課題を見つけ、今後の授業改善につなげていく。
- ・授業評価のデータは、アクティブハイスクールの研究資料として、適正に保管・使用する。

アンケート用紙は、『(いい授業しようよ) 生徒による授業評価開発委員会報告(H16.1)/東京都教育委員会』の中のものを使用しました。

日々の授業は、先生と生徒でともに作り上げていくものです。このアンケートは、授業をよりよいものに改善していくことを目的としています。教科の成績に反映するものではありませんので、あなたの感じたままを書いてください。また、成績には関係ないものですが、真剣に答えてください。(5段階評価)

A. 授業の内容について

- J1 授業内容に興味を持てた。
- J2 授業内容がよく理解できた。
- J3 この授業を通じて、新しい知識を得たり、物の見方・考え方が学べた。
- J4 この授業は自分自身の役に立つと思う。
- J5 この授業を受けて、学習意欲がわき、より深く学習したくなった。

B. 授業の進め方について

- T1 先生の説明は分かりやすい。
- T2 先生の声の大きさや話し方は聞き取りやすい。
- T3 黒板に書かれたこと・プリント・ビデオなどは効果的で、学習の理解に役立った。
- T4 授業の進む速さは適切だった。
- T5 生徒が理解できるように、授業がよく準備され、工夫されていると思う。
- T6 先生は熱心に教えてくれたと思う。

C. あなたの授業への取り組みについて

- S1 この授業に積極的に参加した。(ノート・プリント・質問・実習など)
- S2 先生の説明を集中して聞いた。
- S3 授業の規律・マナーを守って授業を受けた。(おしゃべり・ケータイ・遅刻など)
- S4 予習・復習やテスト勉強など、自主的に学習した。

D. 今学期を振り返って、この授業の感想を書いてください。(自由記述)

今回のアンケート用紙は、実習・実技科目にはちょっと使いづらいものでした。項目を追加・削除して、次回の調査までには「実習・実技科目用アンケート用紙」を用意しようと思います。

アンケートの集計は、スキャナー（Scan Snap 富士通）で自動読みとりをし、OCR処理システム（MarkScan 神奈川県立総合教育センター）で処理をして、EXCELでプリントアウトします。1クラス40人分の処理にかかる時間は、読みとり約3分・OCR処理約3分で、合計10分程度です。（7月にアンケートをとった時にはスキャナーが間に合っていなかったため、アンケート用紙から手入力をしましたが、それでも10分くらいで入力できます）

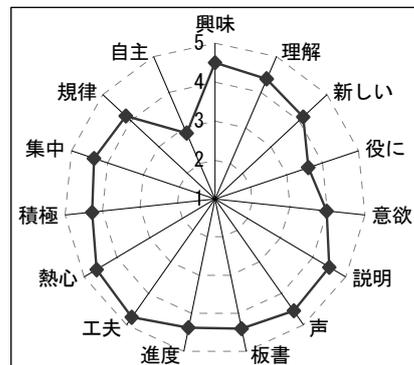
アンケート用紙は、OCR処理システムに合わせるための規格がいくらかあるのですが、WORD等のワープロで作成して、洋紙（A4判）に輪転機印刷したものを使うことができます。学年・組・番号の欄を設けて、授業評価の個別追跡をすることも技術的には可能です。

今後、2学期末・学年末にも「授業評価アンケート」を実施しようと考えていますが、教科によっては单元ごとに学期の途中で実施したり、独自項目のアンケートを実施することも考えられますので、その際にはご連絡下さい。

●各講座のデータ集計

それぞれの講座ごとにアンケートを集計して、教科担当の先生にお返ししました。A～Cのそれぞれの項目の5段階評価の加重平均と、それを20倍して100点満点にしたもの、肯定的な評価(5と4)の割合とを、左のような表にしています。5段階の「3」は「どちらとも言えない」という評価ですから、100点満点で60点以下なら否定的な評価が多いということになります。5段階の平均で言えば「3.5」くらいは欲しいですし、肯定的な評価(5と4)の割合も50%以上欲しいところです。それぞれの項目の5段階評価の平均点を、右図のようなレーダーチャートに表すと、どの項目が弱いかがよく分かります。

5段階評価	興味	理解	新しい	役に	意欲	説明	声	板書	進度	工夫	熱心	積極	集中	規律	自主	
5	26	22	16	9	17	23	26	26	23	33	28	20	24	20	5	
4	8	11	14	12	8	14	10	5	10	4	9	12	7	10	7	
3	6	7	10	14	13	3	4	8	6	3	3	7	9	8	14	
2				4	1			1	1			1		1	5	
1				1	1									1	9	
加重平均	4.5	4.4	4.2	3.6	4	4.5	4.6	4.4	4.4	4.8	4.6	4.3	4.4	4.2	2.9	
5・4の割合%	85	83	75	53	63	93	90	78	83	93	93	80	78	75	30	
100点換算	82.4				90.7				78.4				84.6			



ここに示したデータは、1年生のあるクラスの理科の授業評価です。全体的にはどの項目もいい評価ですが、「J4 この授業は自分自身の役に立つと思う」と「S4：予習・復習やテスト勉強など、自主的に学習した」の評価が低くなっています。そのような評価の原因をさぐって、授業の改善が求められるところです。

また、自由記述の欄の生徒の声も参考になります。2学期以降の授業に生かしていきたいものです。

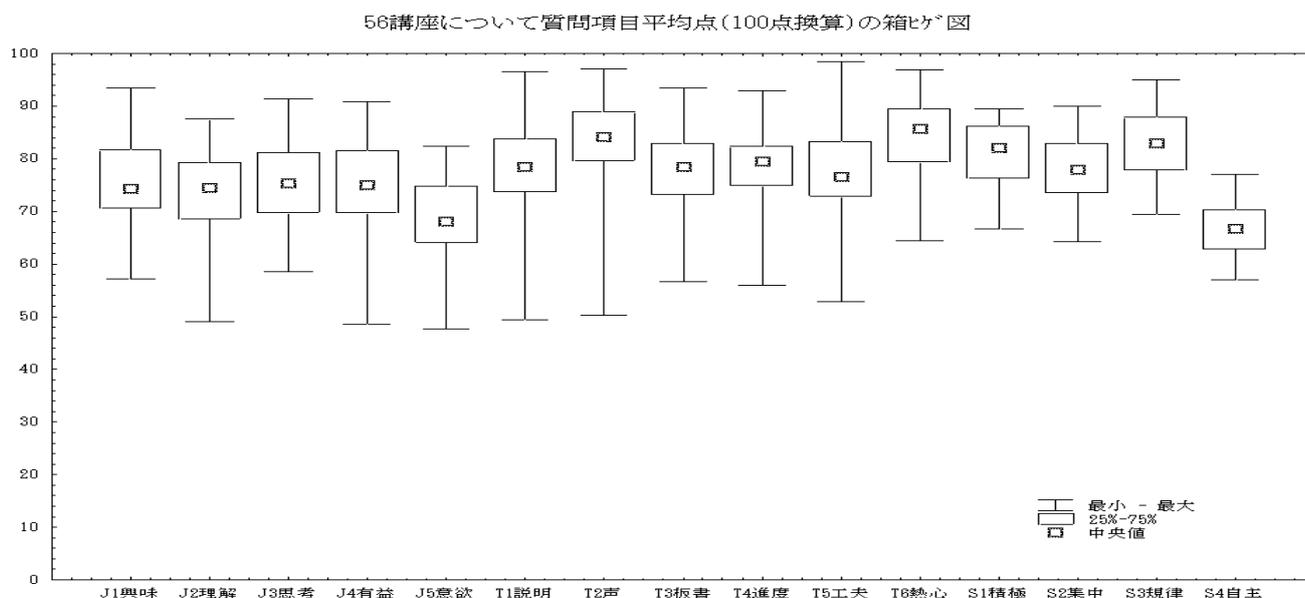
- ・私は中学の頃、理科は得意な部分と苦手な部分があり、全体的にはあまり好きではない科目だった。でも高校に入って、笠商の理科を受けてみると、「理科ってこんなにおもしろいものだったんだ!!」ときづくことができました。
- ・実験をしながらだったので、楽しく印象的で分かりやすかった。
- ・進むペースがちょうどいいくらいだったので、2学期もこれくらいのペースで授業をしてほしい。分かりやすく説明して下さるので、ありがたいです。
- ・実験がたくさんあって楽しかったが、生徒にも実験させてほしい。

●56 講座全体の項目別集計

アンケートを実施していただいた 56 講座全体を、アンケート項目ごとに集計した表を示します。笠商の教育力をトータルに（※実際には全講座の 1/4）示すものと言えるでしょう。

項目名	内容	平均値	中央値	第1四分位	第3四分位	標準偏差	最大値	最小値
J1興味	授業内容に興味を持てた。	75.5	74.3	70.6	81.6	8.1	93.5	57.1
J2理解	授業内容がよく理解できた。	73.5	74.5	68.6	79.1	8.2	87.5	49.0
J3思考	この授業を通じて、新しい知識を得たり、物の見方・考え方が学べた。	75.6	75.3	69.6	81.1	7.5	91.3	58.6
J4有益	この授業は自分自身の役に立つと思う。	75.1	75.0	69.7	81.4	8.4	90.8	48.6
J5意欲	この授業を受けて、学習意欲がわき、より深く学習したくなった。	68.7	68.0	64.2	74.6	7.7	82.4	47.6
T1説明	先生の説明は分かりやすい。	77.6	78.4	73.7	83.6	9.8	96.5	49.4
T2声	先生の声の大きさや話し方は聞き取りやすい。	83.0	84.2	79.7	89.0	8.5	97.0	50.3
T3板書	黒板に書かれたこと・プリント・ビデオなどは効果的で、学習の理解に役立った。	77.7	78.5	73.0	82.9	7.5	93.5	56.6
T4進度	授業の進む速さは適切だった。	78.0	79.5	74.9	82.4	8.1	93.0	56.0
T5工夫	生徒が理解できるように、授業がよく準備され、工夫されていると思う。	77.1	76.6	72.7	83.1	9.5	98.5	52.8
T6熱心	先生は熱心に教えてくれたと思う。	84.1	85.6	79.4	89.4	7.4	96.9	64.4
S1積極	この授業に積極的に参加した。(ノート・プリント・質問・実習など)	81.1	82.1	76.3	86.1	5.7	89.5	66.7
S2集中	先生の説明を集中して聞いた。	77.7	77.9	73.4	82.8	6.6	90.0	64.3
S3規律	授業の規律・マナーを守って授業を受けた。(おしゃべり・ケータイ・遅刻など)	82.7	83.0	77.9	87.8	6.3	95.0	69.5
S4自主	予習・復習やテスト勉強など、自主的に学習した。	66.5	66.8	62.8	70.1	4.8	77.1	57.0
総計		76.9	77.2	73.4	81.1	6.4	88.5	61.0

上表各項目の「中央値・四分位点・最大値・最小値」をグラフにして比べてみると、



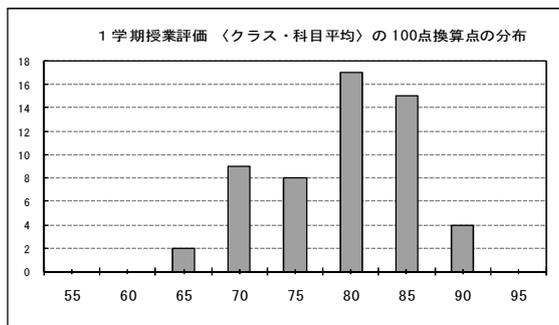
ほとんどの項目が 70 点（5 段階では 3.5）以上の平均で、いい評価を得ています。「J5：この授業を受けて、学習意欲がわき、より深く学習したくなった」「S4：予習・復習やテスト勉強など、自主的に学習した」の平均点が少し低いのが目につきます。

各項目間の相関関係を統計プログラムで分析（主成分分析）すると、右表のように「S4：自主的な学習」の項目とそれ以外の項目との相関が低いことがわかります。「S4：自主的な学習」の平均点が低いということもあるのですが、「予習・復習やテスト勉強など、自主的に学習した」というこの項目自体が「授業そのものの評価」からは少しずれた質問なのかもしれません。

変数名	第1主成分	第2主成分	第3主成分
J1興味	0.93	-0.01	-0.23
J2理解	0.90	-0.07	-0.13
J3思考	0.87	0.28	-0.28
J4有益	0.67	0.59	-0.22
J5意欲	0.90	0.13	-0.21
T1説明	0.94	-0.24	0.14
T2声	0.85	-0.30	0.15
T3板書	0.92	-0.20	0.14
T4進度	0.87	-0.33	0.04
T5工夫	0.85	-0.43	0.05
T6熱心	0.87	-0.31	0.19
S1積極	0.84	0.32	0.06
S2集中	0.90	0.21	0.03
S3規律	0.73	0.31	-0.01
S4自主	0.35	0.62	0.64
固有値	10.58	1.64	0.75
寄与率	70.52	10.93	5.01
累積寄与率	70.52	81.45	86.45

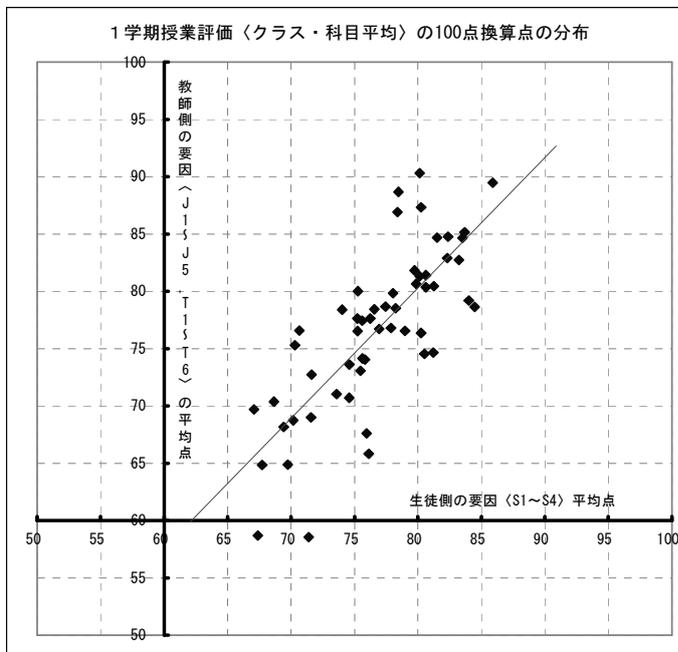
●56 講座の総合評価の散布図

各講座の総合平均点をヒストグラムに表すと、右のようになります。平均 76.9 点、標準偏差 6.3 点でした。笠商全体としては、多くの講座でいい授業ができていないのではないでしょうか。



各講座の集計で、教師側の要因である〈J1～J5, T1～T6〉の平均点を縦軸に、生徒側の要因である〈S1～S4〉の平均点を横軸にして、56 講座の授業評価の分布を表したのが下の図です。

2つの軸の間には強い相関関係があることが分かります（相関係数 0.77）。「いい授業をすれば、生徒も積極的に勉強する」ということが言えそうです。（当たり前ですね）



●「授業評価」から「授業改善」に向けて

「授業評価」はアンケートをとっただけに終わらせるのでは、かける労力からしてもったいないです。授業評価の結果をどう「授業改善」につなげていくかが大事です。どの学校でも、この点がいちばん重要であり、いちばん難しいことなのですが…。

『「いい授業しようよ」生徒による授業評価開発委員会報告(H16.1)/東京都教育委員会』で紹介されている「授業改善のPDCAサイクル」の項目を紹介すると、

P L A N	<p>(1)どこをどのように改善するかの検討</p> <p>生徒による授業評価や校内研修をとおし、授業改善のために必要なことは何かを検討する必要があります。その際、生徒による授業評価と合わせて、生徒の自己評価や他の教員等から意見を得ることで、より効果的な改善につながります。</p> <p>(2)授業改善への具体的計画作成と効果予測</p> <p>検討した問題点をよりよく改善するために、授業者は改善策の具体化を図る必要があります。そして、その具体化した計画とそれを実施したときの効果を予測することが必要です。その際、校内でグループを作って研修を行っている場合は仲間の教員に相談しながら計画を立てることが大切です。具体的に文書として週ごとの指導計画などに明示するのも効果を上げる方法の一つです。ここが PLAN に相当する部分です。</p>
D O	<p>授業改善策の実施</p> <p>実際の授業において、授業改善の PLAN を実践します。授業改善という性質上、すぐに成果として見えない場合もあります。しかし、授業の課題解決のための計画を実践し、よりよい授業を目指すという取組が重要です。これが DO です。</p>
C H E C K	<p>授業改善策の効果</p> <p>生徒による授業評価を実施した結果を生かして、授業改善が図られているかどうかを CHECK します。また、生徒だけではなく、グループの教員などに授業参観を求め、教員の目から見た授業の変化や授業に対する意見をもらうことで効果がどの程度出ているのかを見ることができます。</p>
A C T I O N	<p>更により授業を目指して</p> <p>生徒による授業評価などにより、改善策の効果が上がっていることを確認し、更なる改善策や、それに伴って現れた新たな課題の解消のための方法を探り、総合的に授業改善を図っていくことが重要になります。よりよい授業を実施する。これが ACTION となります。</p>

まずは、個人・教科のレベルで、授業評価アンケートの結果の分析と授業改善に向けての研修会を開いていただければありがたいです。

文化祭・体育祭が成功のうちに終わりました。生徒たちの頑張りとともに、先生方の指導、保護者・地域の方々のご協力があったからこそ成功だろうと思います。

さて、「アクティブハイスクール研究事業」一年目も後半に入ってきました。ここまで、「コーチング職員研修」「生徒リーダー研修会」「授業公開・授業評価」などに取り組んできました。

「コーチング職員研修」は『主体的に進路を選び取る力の育成』とのテーマで実施しています。1学期期末テスト中に開かせていただいた「第1回研修会」の内容は、

「第2回コーチング職員研修会」を次のように予定しています。

日時	10月22日(月) 13:30~17:00 (予定) ※2学期中間考査3日目の午後
場所	吸江会館・多目的ホール
対象	本校教職員・全員 (学年団ごとにグループ分け) ※当日出張などで不在の場合は、事前にご連絡ください。
講師	(株)西日本ジャテックス・専属講師
内容	〈コーチング基礎技術〉の理解と実践 ①「SL理論」による発達段階に応じた質問技術 ②「直感」「自己管理」の技術 ③「確認」「共感・受容」の技術

①コーチングの基本的な考え方

コーチングとは、相手が最大限の成果を創り出す潜在能力を解放することである。その人に教えるのではなく、自分自身で学ぶのを援助することによって、それを実現することである。

②GROWモデルの理解と実践

- Goal : 「何を目標にしますか?」
- Reality : 「現在、どんな状況ですか?」
- Resource : 「どんな条件(制約)がありますか?」
- Option : 「どのような方法で進めますか?」
- Will : 「どのような計画ですか? 達成できそうですか?」

③SL理論による4タイプに応じた質問技法

〈生徒の発達段階4タイプ〉



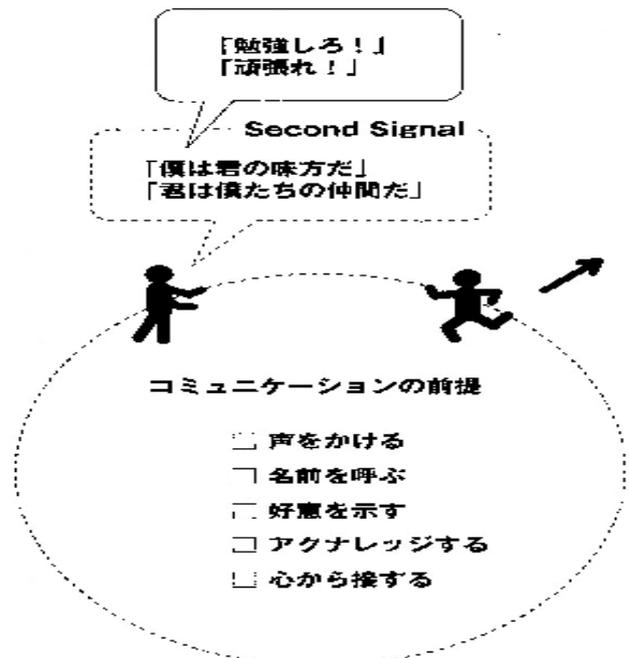
〈Situational Leadership: 状況対応リーダーシップ〉



④「傾聴」のレッスン

といったものでした。

今回の研修は「GROWモデルに沿って、コーチングのロールプレイ」が中心になると思います。前回同様に、楽しく有意義な研修になりますよう、積極的なご参加をよろしくお願いいたします。



※宿題がありました。

「〈生徒の発達段階4タイプ〉のうち、D2(なげやり型)…学力も高くなく、やる気もみえない D3(他責化型)…学力はありながら、やる気をみせず、先生の言うことに耳を傾けようとならないという生徒について、〈自分がその役になって、コーチングを受ける〉ことを想定して、事例を作っておく」ということでした。D2かD3のどちらかの生徒役ができるように、考えておいてください。

「アクティブハイスクール研究事業」の「コーチング職員研修会・第2回」を、中間考査3日目の午後に行きました。「ホントは中間考査の午後はゆっくりしたいのになあ〜」という気持ちもあったと思うのですが、33名の参加をいただき、3時間余りの研修を受講していただきました。

前半は、第1回の研修会の復習と、「5つのコーチングスキル」についての講義が中心となりました。

- ①「傾聴」 …相手の話の背景までも聴く
- ②「質問」 …拡大質問・未来質問・肯定質問を
- ③「フィードバック」 …自分が感じたことを相手に返す
- ④「承認」 …相手の成長・成果を認め伝える
- ⑤「勇気づけ」 …そのままのあなたが素晴らしい

〈スキル〉は「訓練すれば誰でも身につけることのできる技能」と辞書にあります。基本的な考え方を理解して、あとは練習し、実際にやってみて習得されるものでしょう。



後半は、生徒の発達段階に応じたD2・D3タイプのケースを想定しての「事例演習(ロールプレイ)」でした。先の「5つのコーチングスキル」を道具に、「GROWモデル」の流れに沿ってコーチングを演習していきました。困難な生徒を目の前にすると、教師は燃えるものですね。とても盛り上がった時間になりました。



あるグループで、「大学へは遊びに行くのだから、どこでもいい。父親は中卒だが、ちゃんと生きている。オレも父親のように生きていく」という生徒に対して、コーチ役の先生の「あなたは父親と同じ生き方で満足なのですか？」という問いかけがあり、生徒(役の先生)が「ハッ」と気付くという場面があったそうです。このような〈拡大質問〉を臨機応変に発することができるのは、その先生の人格と経験によるものが大きいように思えるのですが、訓練によって近づける部分も相当あるのではないかと思います。そのように信じて、今後も研修を重ねていきたいし、実際に生徒にも接していきたいと感じました。

■ 研修会の5段階評価アンケート

平均

楽しかったか	5・・・4・・・3・・・	4.1
理解できたか	5・4・・・3・・・2	3.7
役立ちそうか	5・・・4・・・3・・・	4.3
学習を深めたい	5・・・4・・・3・・・	3.9
講師の説明は	5・・・4・・・3・・・	4.2

■ いただいた感想から

どうしても私たちは時間に追われて、結論をすぐに出したがつてしまう時があります。相手の気持ちをしっかりと受け止め、共感しながら問題解決へと導いていけるよう、今後がんばっていきたいと思います。本日はたいへんありがとうございました。

実際に先生役をしてみて、生徒の考えを引き出すのは難しいと思いました。他の先生からアドバイスをもらって、とてもありがたかったです。

係の先生方、いつも準備等ありがとうございます。研修の内容そのものは、受けてよかったなあと思えるものでした。生徒に対してだけでなく、自分の子どもに接するときにも役に立ちそうです(常に実践するのはムリかもしれないけど)。研修の時間がもう少し短ければ…。試験の午後は休みたいな…とか思うけど、やっぱりムリ?

先生方とコーチング研修をする中で、互いに情報や研修内容を共有できることは、コーチングの勉強以外に、今後気軽に話し合えるキッカケになると思います。

この仕事を選びながら、コーチングについて知識的にも技能的にもほとんど精進してきませんでした。自分のスキルの低さを痛感し、反省しております。

やる気のない生徒をやる気にさせる面接は、本当に難しい。いろいろ試行錯誤していく必要がある。自分の今までのやり方の不備がよく分かった。

時間の関係で、ゆっくり説明できなかったのだと思う。少し内容が欲張りすぎだったかも。コーチングについて、もっともっと勉強してみたいと思った。実践的に!

GROWモデル面談は有効だと思う。ただし、GOALのない生徒には難しい。GOALを作らせる前段階が必要か。

■ 次回の研修は

「コーチング職員研修・第3回」 (今年の最終回)

12月17日(月) 9:00～(予定) 吸江会館・多目的ホール
『事例研究』『集団への働きかけ』『面談』の予定です。



2 学期末のAHS研修会のご案内

※2学期末に研修会が集中しますが、ご参加をよろしくお願いたします。

※出張・休暇などで研修会に参加できない場合は、事前に係までご連絡ください。

■ 研修会 『《フロンティアハイスクール》の継承と発展』

日 時	12月12日(木) 14:00~16:00	※職員会議での提案から1日ずらしています。
場 所	吸江会館・多目的ホール	
対 象	全教職員	
内 容	①学習会「フロンティアの取り組みに学ぶ」 ②学年団別研修「学年としてAHS事業に取り組むこと（3学期から来年度に向けて）」 （1年団：2階会議室，2年団：多目的南半分，3年団：多目的北半分）	

※裏面の「H19年度アクティブハイスクール事業の実施について」
「H19年度アクティブハイスクール事業計画書」を参照してください。

■ コーチング職員研修・第3回

日 時	12月17日(月) 9:00~12:30
場 所	吸江会館・多目的ホール
対 象	全教職員 ※学年団ごとにグループ分け
講 師	(株)西日本ジャテックス・専属講師
内 容	ケース事例研究①②，グループコーチング ※当初の計画から少し変えて，コーチング演習に重点を置いた内容になります。

■ 研修会「授業評価から授業改善に向けて」

日 時	12月25日(火) 10:00~12:00
場 所	吸江会館・多目的ホール
対 象	全教員
講 師	岡山大学教育学部・准教授・住野好久先生（カリキュラム開発学・学習システム開発学）
内 容	○授業評価アンケートの実際と授業改善，○校内の研修・研究体制づくりについて などについて，懇談的な研修会にしたいと考えています。

※この研修会は当初の計画にはありませんでしたが，1・2学期と「授業評価アンケート」を実施して，その結果の分析と，授業改善の方向を見つけるために設定しました。

■「アクティブハイスクール事業」の概要 (「H19年度アクティブハイスクール事業の実施について」抜粋・岡山県教委・H19/5/2)

【趣旨】

生徒一人ひとりの学力向上と進路希望の実現のため、平成19年度～平成21年度の3年間、2つの部門で学力向上に取り組む県立高等学校を〈アクティブハイスクール〉として指定し、明確な目標と確かなプロセス、組織的な展開と的確な評価による改善を通じた「学力向上の方法を追究」する取組を支援するとともに、「成果を県内の高等学校に普及」することにより、高等学校教育の充実・発展に資する。

【事業実施上の留意点】

- ①生徒の学力に関して、客観的なデータに基づき、「学力向上の目標を明確化」する。この際、数値化できるものは数値化する。
- ②目標とそれを実現するプロセスごとに、「目標の実現状況を定期的に把握し評価」するとともに、工夫・改善に生かす。
- ③実行されるプロセスを、「組織・方法・スケジュールを明確化して計画」する。
- ④全体を総括するセクションを設けるなどして、「学校全体で組織的に取り組む」。
- ⑤取組みの成果については、「公開授業や実践発表会」等を通じて、積極的に普及に努めるものとする。

■本校の「アクティブハイスクール事業」への取り組みについて (H19年度アクティブハイスクール事業計画書から)

【目的】

- ①将来のスペシャリストとしての「基礎・基本の確実な定着」と、生徒が「自主的・主体的な学習に取り組む習慣」を身につけることによって、生徒が「自らの意志と責任で進路を選択・決定」することができる能力の育成
- ②「地域や産業界と連携した体験的学習の推進」を通して、生徒の知的好奇心・関心を喚起し、新たな課題に創意的に取り組む力とさらに上を目指す学習意欲の育成

【事業内容】

平成19年度の研究テーマ：「フロンティアハイスクールの継承発展」と「コーチング技法の導入」

- (1)コーチング技術の導入に関する取り組み
 - ①教員対象コーチング研修会の実施
 - ②コーチングの手法を取り入れた生徒面談、三者面談の実施
- (2)教科の指導力向上の取り組み
 - ①コーチング技法を取り入れた指導法の研究
 - ②「笠商学」の確立
 - ③「指導法の工夫と授業改善のPDCAサイクルシステム」の構築と指導体制づくり
 - ④「授業評価アンケート」等を通じた指導力向上の取組
 - ⑤「授業公開」の推進
 - ⑥グループ学習、「自学自習の推進」と少人数指導、習熟度別授業の発展
- (3)目標管理手法に関する取り組み
 - ①学校経営計画作成
 - ②学校経営計画に沿った各教科・分掌の目標設定とその評価
 - ③前記①②を踏まえての「自己目標シート」作成とその内容の充実
- (4)評価と検証の取り組み
 - ①検証のための学習状況調査及び授業評価の実施
 - ②学校自己評価の実施
 - ③学校評議員による評価
- (5)先進校視察



コーチング職員研修・第3回のご案内

■ 日 時 : 12月17日(月) 9:00~12:30

■ 場 所 : 吸江会館・多目的ホール

■ 内 容

- (1) 前回の復習 (GROWモデル・5つのスキル)
- (2) ケース事例研究①「無気力、生活にも問題のある子」
- (3) ケース事例研究②「真剣に取り組めない、チャラチャラした子」
- (4) グループコーチング (8人で一人のコーチ役をつなげていく)



※当初は「グループコーチング (集団に対するコーチングの応用)」という内容を予定していましたが、前回の研修後のアンケートに「ロールプレイの演習をもう少し深めたい」とのご希望がありましたので、このような内容に変更しました。

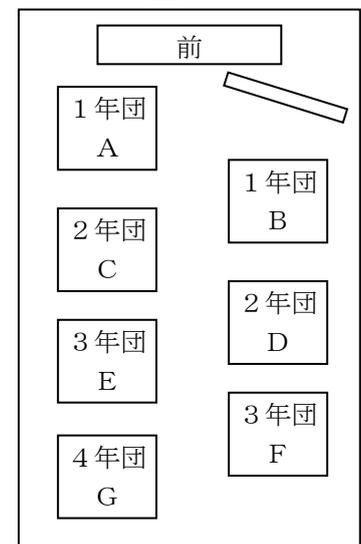
■ 座席 (グループ分け) ※順不同・敬称略

1年団	A: 野崎武彦, 臼井正徳, 武部知之, 佐藤敏行, 南光礼子, 原田啓永 B: 山川喜己, 岡田弘秀, 西崎文貴, 弘中美紀, 山田京子, 難波二郎
2年団	C: 西山正宏, 佐藤達郎, 板野巧, 橋本英俊, 横山一郎, 山口三恵子, 藤井純子 D: 宮原芳郎, 丹治和之, 難波範行, 足立茂行, 原田泰志, 高田圭子, 石原雅子
3年団	E: 石下義久, 三澤啓二, 高木康正, 渡邊賢一, 吉澤智美, 柳井典子, 坂本由美子, 清水親義 F: 板持寿明, 広沢正年, 渡辺隆人, 豊池律治, 成田恵子, 仁科元子, 森安佐智子
4年団	G: 片山正一, 吉田信, 坪口大蔵, 東田雄介, 村松保則 (津山高・教頭)

※今年最後のコーチング研修会です。よろしくお祈いします。

GROWモデル	5つのスキル
Goal 何を目標にしますか?	「傾聴」 相手の話の背景までも聴く
Reality 現在どんな状況ですか?	「質問」 拡大質問・未来質問・肯定質問を
Resource どんな条件がありますか?	「フィードバック」 自分が感じたことを相手に返す
Option どのような方法で進めますか?	「承認」 相手の成長・成果を認め伝える
Will どのような計画ですか?	「勇気づけ」 そのままのあなたが素晴らしい

座席





「授業評価から授業改善に向けて」研修会のご案内

日時	12月25日(火) 10:00~12:00
場所	吸江会館・多目的ホール
講師	岡山大学教育学部・准教授・住野好久先生（カリキュラム開発学・学習システム開発学）
内容	○授業評価アンケートの実際と授業改善 ○校内の研修・研究体制づくり …などについて、懇談的な研修会にしたいと考えています。

■ 2学期授業評価アンケートから

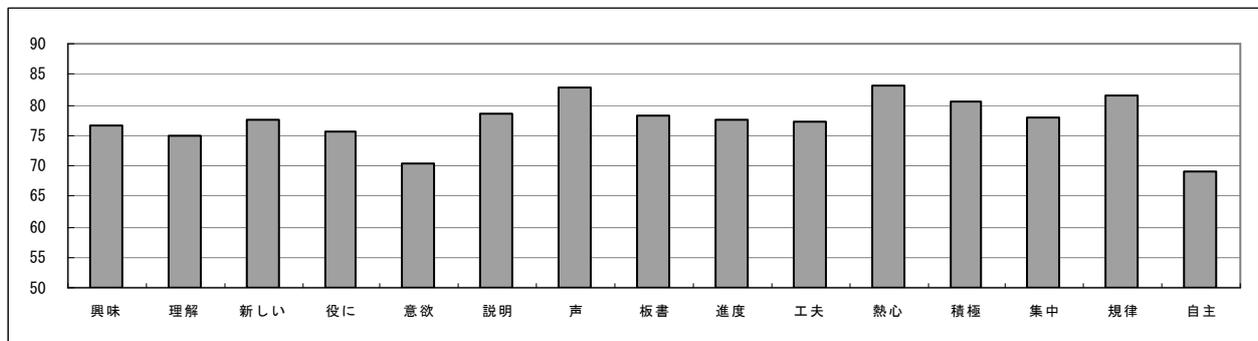
11月下旬に「生徒による授業評価アンケート（2学期）」をお願いしました。全部で全講座の40%近く、83講座について実施していただきました（1学期は56講座）。ご協力ありがとうございました。

アンケート用紙は、今回も東京都教委『〈いい授業しようよ〉生徒による授業評価開発委員会報告(H16.1)』のものを使用しました。また、体育科用に「実技教科・授業評価アンケート用紙」も作りました。

●各講座のデータ集計

それぞれの講座ごとにアンケートを集計して、教科担当の先生にお返ししました。集計表の見方については、11月16日に『授業評価アンケート集計表の見方』というプリントを配りましたので、それを参照してください。

(1)各講座のアンケート項目の「5段階評価」を20倍して「100点換算」した値を、83講座で平均した値は、

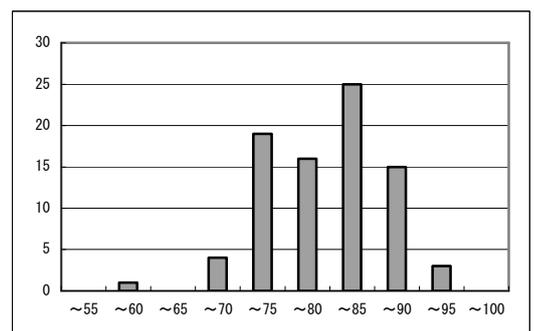


平均点が高いのは、教師側では〈先生の声の大きさや話し方は聞き取りやすい〉〈先生は熱心に教えてくれたと思う〉、生徒側では〈この授業に積極的に参加した〉〈授業の規律・マナーを守って授業を受けた〉といった項目です。

逆に、平均点が低いのは、〈この授業を受けて、学習意欲がわき、より深く学習したくなった〉〈予習・復習やテスト勉強など、自主的に学習した〉という項目です。特に〈自主的な学習〉については、1年生進研模試のアンケート調査で、「計画的に家庭学習しているのは16%」「定期考査中でさえ計画を立てて学習しているのは半分以下」とありました。本校生徒が進路を切り開くときの「魔法の杖＝自学」を、1年生から持たせることが必要ではないかと考えます。

(2)15項目を総合して「100点換算」した値の、83講座ぶんのヒストグラムは、右のようになりました。

まずは、個人のレベルで授業評価アンケートの結果を検討していただき、さらに教科ごとに分析と授業改善に向けての研修会を開いていただければありがたいです。



て、生徒のレベルをさらに上げたい。そのためには、我々教師集団のスキルアップがさらに必要だと思います。

✍️流れを意識しすぎるとうまく行かない気がするので、コーチングのスキルを、まずは自分自身しっかり身につけておかないといけないと思った。

✍️「傾聴」の大切さに気付いた。

✍️演習は少し難しかったけど、やっぱりやってよかったと思います。

✍️コーチングの力量が、教師に必要な不可欠な時代になってきていると思います。

✍️3回の研修会の中で、いちばん参加率が高く、よかったと思います。

✍️コーチングはすべての場面（たとえば進路指導以外に、生徒指導や生活指導 etc. に）使えるのですか？ いつもコーチングを意識して話した方がいいのですか？



事例研究（ロールプレイ）



グループコーチング

■ コーチングの書籍案内

● JATEX・古垣さんから

『コーチング・マネジメント』 伊藤守(著) ディスカヴァー・トゥエンティワン 2002/07 ¥2100 (税込)

『パフォーマンス・コーチング—会社が変わる・組織が活きる』 石川 洋(著) 日本実業出版社 2004/05 ¥3000 (税込)

『カウンセラーのコーチング術』 市毛 恵子(著) PHP 研究所 ¥1365 (税込)

『教師力アップのためのコーチング入門—子どもを伸ばすコツと会話術』 河北 隆子(著) ¥1848 (税込)

※AHS委員会で買っています。

● AHS委員会で購入しているもの

『コーチング・バイブル—人がよりよく生きるための新しいコミュニケーション手法』 ローラ ウィットワース, フィル サンダール, ヘンリー キムジーハウス(著) 東洋経済新報社 ¥2,625 (税込)

『図解コーチングマネジメント』 伊藤 守(著) 2005/04 ¥1,050 (税込)

『「最高の能力」を引き出すコーチングの教科書』 本間 正人(著) 2006/08 ¥1,680 (税込)

『教師力アップのためのコーチング入門—子どもを伸ばすコツと会話術』 河北 隆子(著) 2004/09 ¥1,848(税込)

『図解 先生のためのコーチングハンドブック—学校が変わる・学級が変わる魔法の仕掛け』 神谷 和宏(著) 2006/09 ¥2,478 (税込)

『教師のほめ方叱り方コーチング—4 コマ漫画付き』 神谷 和宏(著) 2007/03 ¥1,890 (税込)

『図解コーチングスキル』 鈴木 義幸(著) 2005/07 ¥1,050 (税込)

『図解 NLP コーチング術—やる気と能力を引き出す』 木村 佳世子(著) 2007/04 ¥1,050 (税込)

「授業評価から授業改善に向けて」研修会を開きました

「学力向上アクティブハイスクール研究事業」の一環として、12月25日(火)に標記の研修会を開きました。補習・部活動の指導などでお忙しい中、30名の先生方のご参加を得て、研修を実施することができました。

研修会の講師を岡山大学教育学部准教授・住野好久先生(カリキュラム開発学・学習システム開発学)にお願いしました。論文指導や研究でたいへんお忙しい中、ご無理をお願いしたのですが、快くお引き受けいただき、笠岡までお越しいただきました。

研修会の初めの30分を使って、係(難波)から、1・2学期に実施していただいた「生徒による授業評価アンケート」の結果について説明しました。評価の悪い項目について、生徒と教師とで認識がずれていたのがおもしろかったですね。また、評価の高かった授業について、何人かの先生の授業の工夫や特徴について発表していただきました。



住野先生のお話は、まず、「授業評価アンケート」は「生徒が感じている印象」を問うものであり、そこからすぐさま「授業改善の課題」が導かれるものではない。「生徒が授業に求めていること」「教師が授業改善しようとしていること」をはっきりとさせることが出発点であるというご指摘を受けて、グループワークを行いました。授業に対する先生方のいろいろな考えの交流ができました。

そして、「課題別授業研究グループ」をつくり、教科を越えた授業改善方法の研究と、授業改善の目的に応じた「アンケート項目の作成」をしていくという方法を教えてくださいました。<いい授業をしよう>という私たち教師の願いを強く支えてくれるような組織を、学校の中に作るということが重要だとのことご指摘もありました。ぜひそのような「授業改善研究グループ」を組織したいと思います。

予定の2時間があっという間に過ぎた研修会でした。

■ 研修会の5段階評価アンケート

5 : とてもよかった	*****	11
4 : よかった	*****	13
3 : どちらともいえない	*	1
2 : よくなかった		0
1 : ちっともよくなかった		0

「5と4」で96%，平均4.4という高い評価でした。

■ いただいた感想から

「授業評価アンケート」に一喜一憂しないと、安堵。授業改善のための「同僚性が大切」と、共感。今後もチームワークで授業改善を目指します。

授業評価アンケートをどう生かすのかの観点が得られた。また、グループの中で他の先生の意見を聞きながら「気付く」ことが多くて、ためになった。

実際の現場でできることとできないことがある。生徒による授業評価が必ずしも「いい授業」であるとは限らないということもわかった。

生徒の授業に対する思い・姿勢が多様化している。住野先生の「生徒はほんとうに分かる授業を求めているのか」という問いには驚きましたが、生徒が何を求めているのかをまず洞察していくことが出発点だと思いました。

他教科の先生方の意見もたくさん聞くことができたり、自分自身の方向性も見えてきたような気がします。改善に向けては、「則行動」とまではいかないかもしれませんが、一歩ずつ行動していきたいと思います。

グループでの話し合いの時間があり、これからどうすればいいかというのが、よく分かった。生徒の実態をきちんと把握し、授業改善につなげていきたい。

アンケートの位置づけと、授業評価で大切なことを考えるきっかけを作っていただいた。教科・科目の違いを言い訳にせず、全教員で改善に取り組む必要性を感じた。

授業は、改善したいと思っていながら、なかなか実行できなかったが、グループで話し合う中で、ヒントを得られた気がしました。実行できるかどうかは「？」ですが…。

「コーチングは自立できていない生徒に対しては有効ではない」という点は大いに納得できます。県教委は意識レベルの低い生徒の意欲を引き出すことに有効だと思っているようなので、ぜひ思い違いが改まるよう助言してやってください。

来年度からの授業について考えさせられました。生徒にとって最も大切なことは、「分かりやすく、しかも楽しい授業」であると確信しました。それには確認プリントをどう作成すればよいか？

研修のタイトルを聞いて、何か難しそうだな…とと思っていましたが、実際に出てみると、分かりやすいし、何よりみんなでいろいろと意見を出していくのが楽しかったです。この研修で学んだことが、3学期から活かせると思っています。

講師の先生がよかったと思います。素直に私には入ってきました。要するに教員も勉強だと思いました。

あらためてチームワークの大切さを気づかせていただきました。笠商のレベルアップを図るためにも、いろいろな先生方の知恵をたくさんいただきたいと思いました。

授業評価アンケートをとっただけで終わりにするのではなく、今後に生かせる研修ができてよかったと思う。教科で話をして、よりよい授業になるように考えて実践していきたい。

参考になりました。また活用させていただきます。



最後にお話された「教科・科目を越えて、グループごとの研修」がいいと思いました。プラス評価（アンケート）も…。

最初の（*アンケート結果の）導入部分がよかった。グループでの話し合いがうまくできた。最初はテーマが固そうで、構えた感じに思えた。「<いい授業がしたい>という教師のアイデンティティ」という指摘に、「そうだ」と思った。

今までは授業をするにあたり、生徒が教師に何を求めているのかという点について、あまり意識していなかったよ

うに思います。生徒の思いと教師の思いが一致していれば、とても興味がわき、魅力的な授業が展開できることを教えていただきました。本当にありがとうございました。また明日から頑張っていきます。

授業評価アンケートをとっても、ざっと目を通しただけで、あまり具体的な項目は気にしていなかったが、あらためて見ていくと、結構いろいろなものが見えてくるものだと思います。



「<いい授業がしたい>という教師のアイデンティティを確認する研修の確保・充実を！」という言葉が耳に残りました。全員が参加できる工夫も必要かもしれません。他の先生と話をすることで、授業に対する具体的なイメージがわいてきました。ありがとうございました。

授業に対する他の先生方の思いや考え方、教師集団として取り組むべき方向性が分かり、充実した研修でした。日々、なかなか話す機会のない話題でしたので、今後の笠商にとって有意義な時間でした。またアドバイスをお願いします。





3 学期の AHS 研修会のご案内

※3月第1週に研修会が集中しますが、ご参加をよろしくお願いいたします。

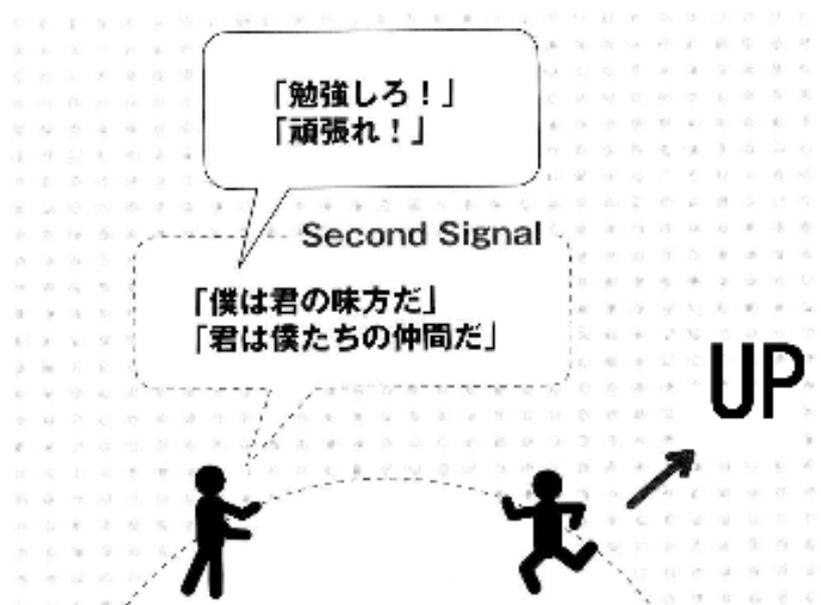
※出張・休暇などで研修会に参加できない場合は、事前に係までご連絡ください。

■ コーチング職員研修・第4回 「コーチングの理論と実際」

日 時	2008年3月4日(火) 13:30~16:30 ※1・2年生学年末考査3日目の午後
場 所	会議室
対 象	全教職員 ※座席は特に指定しません。
講 師	NPO法人・キャリアセンター「ビッグバン・ファクトリー」 松田 隆之 氏
内 容	<p>生徒のやる気と潜在能力を引き出し、生徒の学力を向上させるためのコーチング技術を習得する。</p> <p>①コーチングの哲学を理解し、生徒への個別対応力を高める。 ②コーチングの技術を学び、成果を生み出すコミュニケーション力を高める。 ③自己認識力を深め(エゴグラムの実施)、継続的なセルフコーチング力を身につける。</p>

※NPO法人「ビッグバン・ファクトリー」代表の松田隆之さんは、津山高校（アクティブハイスクールの一つ）のコーチング校内研修会の講師であるだけでなく、最近はこちらの教育関係の研修会で講演をされています。1・2学期にお世話になった(株)西日本 JATEX さんとはまた違った視点からのお話が聞けるものと思います。

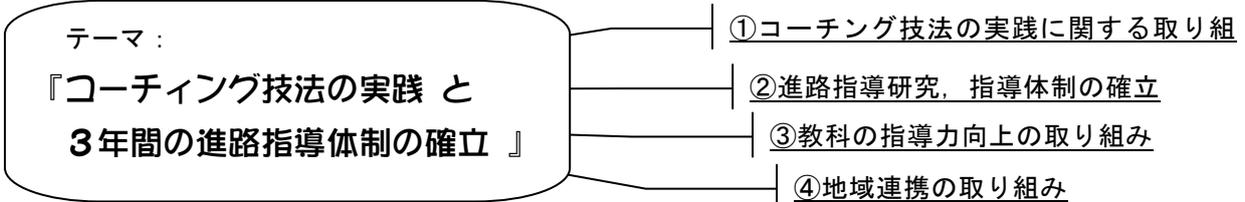
※今年度の研修会はこれが最後になります。これまで熱心なご参加をいただき、ありがとうございました。





1学期のAHS研修会のご案内

「学力向上アクティブハイスクール研究事業」の2年目に入りました。今年度は



という全体的な構想で取り組んでいく予定です。昨年度の取り組みをうけて、今年度は実質的な成果をあげていくことが求められます。自主的・積極的な研究をよろしくお願いします。

■ 職員研修 「国際学力調査 (PISA・IEA) を読む」

※7月8日(火)にコーチング職員研修・第1回を実施する予定でしたが、日程調整がうまくいかず、7月25日(金)に延期になりました。この日は職員研修に切り替えさせていただきます。

日 時	2008年 7月8日(火) 13:30~16:30	※1学期期末考査・1日目の午後
場 所	吸江会館・多目的ホール	
内 容	中一夫氏作成の『学力低下の真相』をテキストに、戦後の学習指導要領の大まかな流れを理解しながら、「国際学力調査」の結果をグラフから読みとり、「学力低下」の問題を考える。(採用試験にも役立つか…)	

■ コーチング職員研修・第1回 「三者面談でのコーチング」

日 時	2008年 7月25日(金) 9:00~12:30	
場 所	吸江会館・多目的ホール	
対 象	全教職員 ※座席は特に指定しません。	
講 師	(株)西日本ジャテックス・講師	
内 容	「傾聴・質問の演習・三者面談でのコーチング」 コーチング研修の基礎技術を復習した後、翌週から始まる「保護者懇談会」で《コーチング》の技術を使えるようになることを目指す。	



ただき、分かりやすく思いました。フィンランドのような教育になればよいと思います。

◆いろいろ考えると難しい問題だなあと思いました。「やる気を引き出すのが教師の仕事」、最近そう思いますが、できていません。

◆プリントを一気に配らず、小出しにするのは、「知りたい」気持ちをかき立てられて、学ぼうという意欲がわきました。数学・理科の調査はショッキングなものでしたが、私には何となく理解できます。点を取りたいがために必死で泣きそうになりながら勉強した覚えがあるので…。その結果、今でも数学・理科は苦手です。今日はありがとうございました。

◆(第2部のみ参加) 数学や理科は、分かったとしても楽しい教科だから、意欲をもってやれば必ずできるようになり、できるから楽しく、自信にもつながるものだと思う。テストのための勉強なら楽しくないし、役に立たないという思いが強くなるのも無理はない。基本は「分かることが楽しい」と思えることではないかと思う。

◆調査結果の一部だけで、子どもたちの学力が低下していると思われていたのに、少し驚いた。いくら小さい頃に勉強しても、勉強しなくなった時点で終わってしまうのが分かったので、自分自身、終わらないようにしようと思う。

◆学習意欲の相乗効果により、生徒がより成長していくことが理解できました。学力を身につけさせるとともに、興味・意欲・やる気を出させる授業をめざして、これからの授業に取り組みたいと思います。

◆第3部が重要だと思います。数学以外のデータがないと、やはり本質はつかめないのでは…。とにかく授業を工夫し続けたいと思います。ありがとうございました。

◆マスメディアによる報道へのリテラシーが大切であると、あらためて感じた。今の日本は、ある一部の人の考えで国民を操作しているように思われる。授業への興味をもたせることの大切さを感じた。授業だけでなく、その後に影響を与えるようなものにしていきたい。

◆もっと勉強したい。早く第3部を読みたい。この学力調査の結果を受け止めて、他校はどうであれ行動を起こそうと思いました。他人がしてくれる、文科省が指示を出してくれるのを待つのではなく、笠商にいる私たちが自分の頭で考えて、どうすればいいかを考えていきたいと思います。さあ、今日から行動を起こしましょう。

◆以前、TVの「世界一受けたい授業」の中でも、この内容が取り上げられていた。そのときよりもさらに詳しい内容で、新しい発見が多くあった。意欲の問題は、本当に頭を悩ます事項であり、大きな課題です。

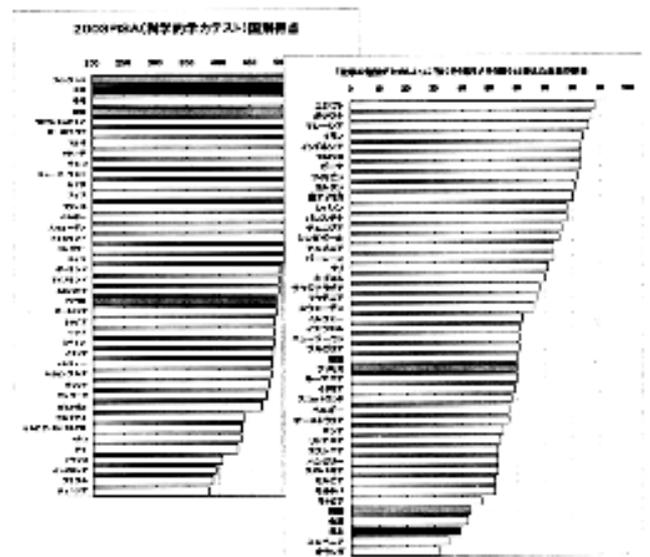
◆何をどうすればいいのかを早く知りたいと思いました。深刻な問題なのに、違う解決策が用意されつつあって、暗い気持ちになりました。ゆとり教育もつめこみ教育も、結果としてよい成果がでていないのはなぜでしょう？

◆日本という国をリードしていく人材の学力と、人として生きていくための学力とでは、同じ「学力」でも一緒ではないと思う。人間力？ 今回の内容は、中一夫さんの考えを示すための内容のような気がして、今いち「なるほど」とは思えなかった。日本国民は全員賢くなければならないのか？ それぞれの役目があると思うのだが…。ただ、新しいことを知る喜びは、人間本来の欲求のはず。それを学校が壊してはいけないですね。



さて、『学力低下の真相』第3部は「成績と意欲の関係 ～求められる教育は？」という内容です。1部・2部の問題提起を受けて、「それではどうすればいいのか？」と考えるものです。

機会ができれば、第3部についての研修会を、そして、「笠商ではどのように取り組めばいいのか」を考える研修会を開きたいと思います。





2008年 コーチング研修について

「学力向上アクティブハイスクール研究事業」の2年目に入りました。今年度は『〈コーチング技法の実践〉と〈3年間の進路指導体制の確立〉』というテーマを掲げて取り組みます。

コーチングについて、昨年度は「コーチング技法の導入」ということで、①教員対象コーチング研修会の実施、②コーチングの手法を取り入れた生徒面談・三者面談の実施などに取り組んできました。

GRROWモデル	5つのスキル
Goal 何を目標にしますか？	「傾聴」 相手の話の背景までも聴く
Reality 現在どんな状況ですか？	「質問」 拡大質問・未来質問・肯定質問を
Resource どんな条件がありますか？	「フィードバック」 自分が感じたことを相手に返す
Option どのような方法で進めますか？	「承認」 相手の成長・成果を認め伝える
Will どのような計画ですか？	「勇気づけ」 そのままのあなたが素晴らしい



「コーチングについての基本的な考え方と方法」が昨年度の研修で修得できたとして、今年度は「**コーチングの実践（定着）**」を目標にしています。日々生徒・保護者と対応する中で「コーチング」を実践してってください。また、今年度末には『**高等学校でのコーチング事例集**』といったものにまとめることをもう一つの「Goal」にしています。日々の実践をぜひ記録しておいてください。



S L (状況対応リーダーシップ) 理論

■ コーチング職員研修・第1回 「三者面談でのコーチング」

日 時	2008年 7月25日(金) 9:00~12:30
場 所	吸江会館・多目的ホール
対 象	全教職員 ※学年団ごと2グループずつの座席
講 師	(株)西日本ジャテックス・講師
内 容	「傾聴・質問の演習・三者面談でのコーチング」 コーチング研修の基礎技術を復習した後、翌週から始まる「保護者懇談会」で《コーチング》の技術を使えるようになることを目指す。

「学力向上・アクティブハイスクール研究事業」の2年目に入りました。今年度は『<コーチング技法の実践>と<3年間の進路指導体制の確立>』というテーマを掲げて取り組みます。

昨年度3回の「コーチング職員研修」で、「コーチングについての基本的な考え方と技術」が修得できたとして、今年度は「コーチングの実践(定着)」を目標にしています。日々生徒・保護者と対応する中で「コーチング」を実践していきましょう。また、今年度末には『高等学校でのコーチング事例集』といったものにまとめることをもう一つの「Goal」にしています。日々の実践をぜひ記録しておいてください。



■ コーチング職員研修・第1回 「三者面談でのコーチング」

「第1回・コーチング職員研修会」を7月25日(金)に開きました。職員会議を前後に振っていただいて、あわただしい中での実施でしたが、34名の参加をいただきました。

今年度も3回の研修会を予定しており、その講師は昨年度に引き続き(株)西日本 JATEX にお申し込みしています。今回の講師は、田中正俊・古垣みゆきの両氏においでいただきました。

研修はまず、昨年度の復習からスタートしました。「GROWモデル」「5つのスキル」…。忘れていたことをだんだんと思い出していきます。

GROWモデル	
Goal	何を目標にしますか？
Reality	現在どんな状況ですか？
Resource	どんな条件がありますか？
Option	どのような方法で進めますか？
Will	どのような計画ですか？

後半は、昨年3回目にやった「速見今市君を想定しての演習」、そして「保護者懇談を想定しての演習」をやりました。

その中で講師の古垣さんとN先生とのやりとりが、そのまま「コーチング事例」になっているなあと感じながら聞いていました。



『昼の上の水練』と言いますが、コーチングも実際に使っていないと、うまくなりませんね。

■ 研修会の評価 (5段階評価)

※アンケートの回収がうまくできず、数が少なくなっています。

- 1) 今日研修会で楽しく学べた → 平均 4.4, 5&4= 88%
5 . . . 4 . . 3
- 2) コーチングについて理解できた → 平均 4.3, 5&4=100%
5 . 4
- 3) 生徒・保護者との対応に役立つ → 平均 4.1, 5&4= 75%
5 . . 4 . . 3 .
- 4) より深く学習したくなった → 平均 3.9, 5&4= 63%
5 . 4 . . 3 . .
- 5) 講師の説明は分かりやすかった → 平均 4.8, 5&4= 100%
5 4 .

■ 感想から

- ◆ コーチングの基礎についての説明は2回目なので、よく理解できたと思う。しかし、実践はなかなか難しいです。講師の方と受講生とのやりとりを聞いてみると、「なるほど、これがコーチングの技術だな」と思えた。どんな返答にも対応できる技術がほしい。
- ◆ 楽しく学習できましたが、やはり実践するのは難しいと思いました。
- ◆ 最初40分の復習はよいアイデアで、記憶がよみがえってきて良かった。これからは自ら意識してで実践するかが会得できるかどうかだと思うので、「GROWモデル」と「5つのスキル」「可能性を引き出す3種類の質問」を机の上に貼っておこうと思いました。今年1年間、がんばってコーチング技法を身につけたいと思います。



■ 2・3年生リーダー研修会

笠岡商業高校が取り組んでいる「アクティブハイスクール研究事業」の一環として、7月31日(木)に、「生徒リーダー研修会」を実施しました。2学期の体育祭・文化祭をにらんで、体育祭・文化祭実行委員、ブロック長・団長、そして2年生の店長・副店長さんから総勢37名に参加していただきました。

講師は、(株)西日本 JATEX の有吉聖治さん・古垣みゆきさんにお願ひしました。『目標に向けて協力するーリーダーシップとメンバーシップ』と題して、「リーダーに必要な条件」「明快な指示の出し方」などの講義を受けた後、「カードを使った協力ゲーム」を行いました。実り多い研修会になりました。

● 研修会の評価 (5段階)

(1)楽しく学べたか → 平均 4.4 , 5&4=95%



(2)ためになったか → 平均 4.6 , 5&4=95%



● 研修会の感想から

【やりたい気持ちだけではまならぬ】

やりたいという気持ちだけで立候補した実行委員だったけど、生徒から見たら「リーダー」なわけで、今さらながら責任重大だと、研修を通して気づけました。指示を出してもみんなが素直に従ってくれるように、日頃の生活態度に気をつけようと思いました。思いやり・協調性・周りをみることなどに気をつけながら準備をして、文化祭を成功させたいです。(3年・Hさん)

【自ら動くところに説得力がある】

全校生徒をひっぱっていく生徒会に入ったものの、どうすれば生徒のためになるのかが、イマイチ分かりませんでした。今回のリーダー研修会で、「リーダーはどう行動すればよいか」が分かりました。「有言実行」という言葉を胸に、指示する自分自身が戦陣を切ってやっていかなければならないと思いました。〈自分も行動する〉ことで、説得力があり、信頼関係も築けます。〈周囲に目を配ること〉で、全員で協力することができます。できないことは(＊その人を)手伝って、できるところは最大限に発揮させようと思いました。(3年・Sさん)

【みんなのイメージを一致させるための話し合い】

後期生徒会に入って、二大行事(体育祭・文化祭)を成功させるため、実行委員会を組織し、今がんばっている最中です。この研修会に参加させていただいて、再度リーダーの大切さ・大変さ・責任の大きさなどを確認できたと思います。リーダーという立場に立つ以上、きちんと筋の通ったことをしていきたいと思います。それを実行するにあたり、いちばん大切なことは「話し合うこと」で、みんなの〈イメージ〉を一致させるため、たくさんの人と会話し、行動に移して、良い二大行事にしていきたいと思います。(3年・Mさん)

【リーダーの立場に立つと見えてくる】

今日のリーダー研修会で、たくさんの人をまとめることの難しさから大変さまで学ぶことができた。去年も参加させてもらったのだけれど、去年では感じることはできなかったことを、いろいろと感ずることができました。また、これから自分のすべきことが、何となくだけど分かった気がしました。リーダーという自覚を持って、これからルールを守ってがんばりたいです。(3年・Kくん)

【仲良しのノリだけでは乗り切れない】

今まででは、リーダーといっても、「他の人と仲良くやっていけばいいかなあ」と思っていたけど、それだけでは〈いいリーダー〉として成り立たないということが分かった。その場のノリだけで乗り切るのではなく、ちゃんと仲間のことを考えながら行動しようと思った。今日の体験を生かし、いいリーダーになってやろうと思いました。(3年・Tくん)

【言うだけのリーダーはいらない】

今日は、これから店長としてみんなを引っ張っていくために必要なことがよく学べました。リーダーは、言うだけでなくまず自らが行動することが大切だと思います。何もしないで言うだけのリーダーにはならないようにしたいと思います。(2年・女子)

【意見を出し合うことで、理解が深まる】

まずゲームをして、楽しみながら協力することを学べたし、一人一人が意見を言うことで、みんなの気持ちをみんなが理解できてよかった。これから副店長をするから、みんなをまとめていかなければならないから、がんばろうと思った！(2年・Aさん)



コーチング職員研修のご案内

今年度のコーチングについての取り組みは、「**コーチングの実践(定着)**」を目標に、3回の職員研修を計画しています。

第1回	7月25日(金)	「昨年度の復習, 三者面談でのコーチング」 コーチング研修の基礎技術を復習した後, 翌週から始まる「保護者懇談会」で《コーチング》の技術を使えるようになることを目指します。
第2回	10月16日(木)	「傾聴・質問の演習, グループコーチング」 コーチング技術でいちばん大事な「傾聴・質問」の技術の修得をめざします。また, 「グループコーチング(集団への働きかけ)」について学びます。
第3回	12月16日(火) (予定)	「グループコーチング・今年度のまとめ」 「グループコーチング」の演習, また「セルフコーチング」の考えを学びます。そして今年度の各自のゴールを確認し, お互いを称えあいましょう。

第1回はすでに終わり, 夏休みの「三者懇談」に役立てていただいたものと思います。第2回は「**傾聴・質問の演習, グループコーチング**」という内容で実施する予定です。クラスでの「進路LHR」を念頭に置いた者ですが, 「グループコーチング」の考え方は, 「授業での教科指導」「部活動での指導」などにも生かすことができると思います。積極的な研修へのご参加をよろしくお願いいたします。

コーチング職員研修・第2回 「傾聴・質問の演習, グループコーチング」

◇日時: 2008年10月16日(木) 14:00~17:00

◇場所: 吸江会館・多目的ホール

◇対象: 全教職員

◇講師: (株)西日本ジャテックス・講師

◇内容: 「傾聴・質問の演習, グループコーチング」

◇座席: 今回は学年団を離れて, 新しいグループ分けで研修をします。



演台

西山	弘中	柳井
遠藤	横山	渡辺隆

広沢	石原	吉澤
佐藤達	木下	岡田

坂本	成田	石井
板野	武部	板持

野崎	山口	坂川
原田	山川	高木

渡辺賢	高田	山田
三澤	西崎	清水

豊池	藤井	南光
橋本	佐藤敏	丹治

AHS・NEWS

面接週間でコーチングを使ってみよう!

アクティブハイスクールの今年度の取り組みでは「**コーチングの実践(定着)**」を目標の一つにしています。

今日から「面接週間」がスタートします。面接の内容は ①科目選択, ②進路面接 が中心になると思っています。短い時間ですが、特に②の「進路面接」の中で、今まで学んできた「**コーチング**」をぜひ実践してください。

生徒の意欲を引き出す「**質問**」を投げかけながら、生徒の考えや思いをしっかりと「**傾聴**」することがポイントだと思います。

※質問例 (第2回コーチング職員研修会の資料から)

【目標の明確化】

来年3月までに「こうなっていたい」という、具体的なイメージはありますか?

今のあなたにとって、一番大事な目標は何ですか?



【現実の把握】

目標達成のために、具体的にどんなことに取り組んでいますか?

目標を立てているのに、まだできていないことは何ですか?



【資源の発見】

目標とする学校についてどのように調べますか?

これまで先輩がどんなところに行っているか知っていますか?

【意志の確認】

今すぐ取りかかれることはどれですか?

いつでも相談に乗るから、いっしょにがんばろう!

面接でコーチングを実践していく中で、

「この質問には生徒がちょっと反応した」

「この投げかけには生徒がやる気をちらっと見せた」

というような事例を、ぜひ係りの方に報告してください(※「**コーチング実践事例メモ用紙**」)。今年度のアクティブのゴールの一つにしている『**高等学校でのコーチング事例集**』を編纂する際の事例として使わせていただきたいと思います。(事例集の中でお名前は載せません)

コーチング実践事例メモ用紙

月 日	月 日 ()
教師名前	
生徒	[]年 男・女
実践事例	



第3回 コーチング職員研修のご案内

今年度最後の「コーチング職員研修」は『グループコーチング』のテーマで、下記のように開催します。

コーチングは基本的に「1対1」のコミュニケーション技術ですが、「相手の自発的行動を促進させる」という点では、「教師(1)対生徒集団(40)」の場面でも、コーチングの考え方を生かすことができます。

学習指導要領に「生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、…〈自ら学び自ら考える力〉の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない」とあります。

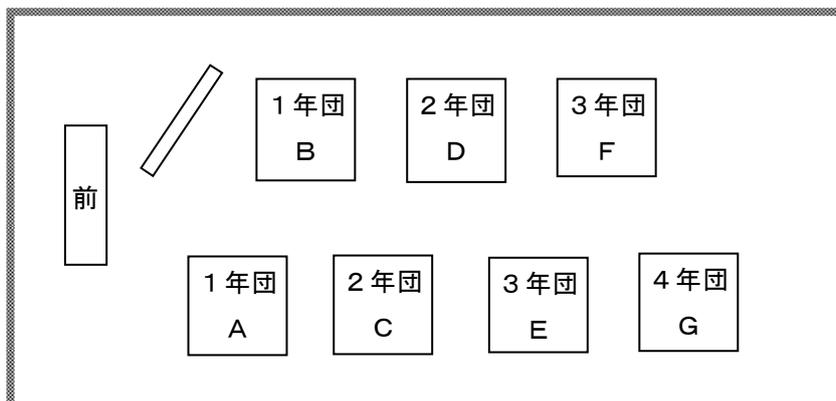
〈生徒の学習意欲を引き出しながら、学力を高めていくような授業〉、それをすでに私たちは無意識のうちに実践しようとしていると思うのですが、今回の研修で「グループコーチング」の方法を学び、日々の授業で意図的に取り組んでいきたいと考えます。

日時	2009年1月7日(水) 13:30~16:30
場所	吸江会館・多目的ホール
対象	全教職員 ※学年団ごと2グループずつの座席
講師	(株)西日本ジャテックス 古垣みゆき・有吉聖治 氏
内容	「グループコーチング」 (1) 集団への投げかけ、〈質問〉の演習 (2) 授業への応用…「理解促進テスト」を利用して (3) 取り組みの〈見える化〉と今後に向けて

グループコーチング入門



■ 座席（グループ分け） ※各学年団で適当な2グループに分かれてお座り下さい。



※今年最後のコーチング研修会です。よろしくお願いします。

2009年の新年早々、第3回「コーチング職員研修」を開きました。たくさんの(31人)先生方の熱心な参加をいただき、有意義な研修会となりました。少々正月モードを引きずっていたのがこの研修で切り替わって、3学期のいいスタートが切れたのではないのでしょうか。

今回は『グループコーチング』というテーマでの研修でした。私たちの教育活動でいちばん大切な「授業」の中で、〈相手の自発的行動を促進させる〉というコーチングの考え方を生かすにはどうしたらいいのか。「グループコーチング」という方法を学びました。〈全体への投げかけ質問〉と〈個人への質問〉とでリズムを作りながら、課題を解決していく方法でした。〈個人への質問〉も、「体験を引き出す」「意見を」「提案を」「要約を」「質問を」等のいろいろなタイプの質問をおりまぜて進行することが必要でした。

最後の20分は、「これまでの6回の研修をふりかえって、〈コーチング手法を活用したこと〉と〈今後活用したいこと〉を、インタビューする」というペアワークでした。「お互いの実践や思いを交流する」ことができて、とても密度の濃い時間となりました。



■ 研修会の評価 (5段階評価)

- 1) 今日の研修会で楽しく学べた →平均 3.9, 5&4= 80%

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---
- 2) コーチングについて理解できた →平均 3.9, 5&4= 72%

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---
- 3) 生徒・保護者との対応に役立つ →平均 4.0, 5&4= 80%

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---
- 4) より深く学習したくなった →平均 3.9, 5&4= 63%

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---
- 5) 講師の説明は分かりやすかった →平均 4.3, 5&4= 92%

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

■ コーチング研修を受けて どんなゴールができましたか?



- ◆楽しく学習できました。聞き上手な教師になろうと思います。しっかり実践していきたいです。
- ◆自分が話すより、相手の話を聴こうと思います。ありがとうございました。
- ◆いろいろな意見をまとめられるようになりたい。具体的な内容が分かりやすかった。
- ◆聴き上手になろうと思いました。貴重な経験をありがとうございました。
- ◆生徒が主体的に考え行動するよう支援をしていきたいと思えます。前時の復習はもう少し短くてOK。
- ◆こちらが主導で生徒を動かすのではなく、もっと生徒が主体的に動けるように心がけたい。

- ◆ゴールが見えるまで、常に努力!
- ◆ありがとうございました。実践できるようにがんばります。
- ◆コーチングという技法があり、意識的に使っている社会人の方がいらっしゃることを知り、刺激を受けました。
- ◆研修をきちんと全回受けていないので、あまりスキルを修得できたとは思えないのだが、すこしずつ実践していきたい(特にプライベートで)。たいへんお世話になりました。来年度はがんばろうと思います。
- ◆常に「傾聴」スタイルで生徒に接していくこと、背景や感情にも気を配ることを目標にしたい。ありがとうございました。
- ◆具体的なGOALが決まりました。毎日元気良く、礼儀正しく、笑顔でさわやかな生徒・学校にしていきたいです。本当にありがとうございました。
- ◆自分に関わる人の話をしっかり傾聴し、必要に応じてGROWを活用したい。
- ◆生徒指導・先生方との人間関係のとりかたの幅が広がりました。5つのスキル・GROWモデルをさらに探求していきたいと思えます。理論と実践の両方から、さらに深めていきたい。
- ◆相手の気持ちが動くような「傾聴」「質問」ができるようになりたい。お世話になりました。
- ◆個人面談において、生徒との距離が縮まったように思う。準備等、お疲れさまでした。
- ◆目標ではないが、(*自分の中での)進化が必要だと思った。短い間でしたが、ありがとうございました。
- ◆常に「傾聴」を心がけ、誠実な生き方を。生徒指導に生かす。

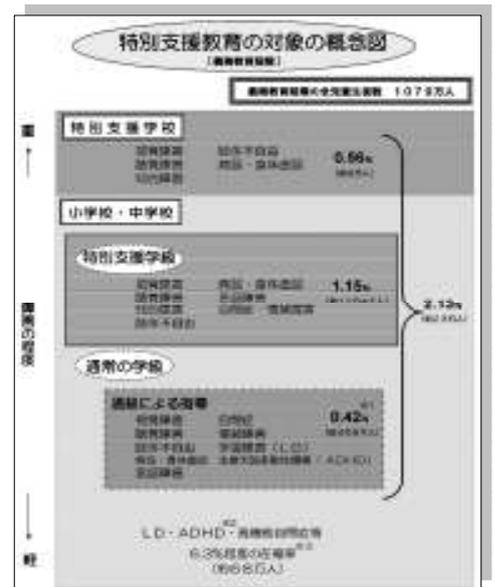


講演会「特別支援教育の現場から」のご案内

県からの指定を受けて取り組んでいる「アクティブハイスクール推進事業」「特別支援教育推進事業」の一環として、上記の講演会を開きます。〈発達障害の理解〉については今までに2回の職員研修を開催しましたが、「中学校の特別支援教育の実態を知りたい」という声もあり、今回の講演会を計画しました。

- 日 時 2009年3月3日(火) 14:00～15:15
- 場 所 会議室 (※以前に「吸江会館」とご案内しましたが、会場が底冷えするので、変更しました)
- 対 象 全教職員
- 講 師 岡山市立芳泉中学校 教諭・三木淳男 先生 (特別支援学級担任)
 ※岡山聾学校に長年勤められ、障害児教育の分野で多くの成果を上げられている。
 現在は芳泉中学校の特別支援教室の担任として活躍されている。

2001年(H13年)に、それまで「特殊教育」と呼ばれていたものが「特別支援教育」と名前を改められました。「盲・聾・養護学校」は「特別支援学校」に一本化され、在籍する幼児児童生徒にだけでなく、地域の幼稚園、小・中・高等学校に在籍する児童生徒の教育の支援も担うことになっています。そして、それぞれの幼稚園・小・中・高校では、特別支援学級において教育を行うことが適当な者、また教育上特別の支援を必要とする者に対して、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な教育を行うこと、となりました。また、各学校に「特別支援教育コーディネーター」を置いて、〈①特別な教育ニーズを有する子どもやその保護者に対して適切な支援を行う。②各学校に設置された「校内委員会」を運営する役割を担う。③学校外の関係機関や専門家、地域の特別支援学校との連携調整役〉として、校内の特別支援教育体制を整えることを求めています。



文部科学省は「特別支援教育」の理念を、

「特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。また、特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものである。さらに、特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている」

として、医師の診断がつく特別な生徒に対してだけでなく、「いろいろな事情で落ちこぼれそうになる子どもたちに対してきちんと支援していこう」という趣旨を強調しています。

さて、私たち笠岡商業高校にも潜在的にいると思われる「特別支援教育を必要とする生徒」に、どう指導していけばいいのでしょうか。さらに、「何らかの困りを抱える生徒が、どんな場面でのどのように困っているのかを知って、的確に対応する」にはどうしたらいいのでしょうか。それらのヒントになるお話を、今回の講演でお話しいただけるものと思います。



アクティブ・プロジェクト 始動!

プロジェクト分野名	メンバー (敬称略)
コーチング	○藤井純子, 宮原芳郎, 山田京子, 小寺敦子
進路コーチ	○野崎武彦, 山川喜己, 渡辺隆人, 藤本隆司, 石井まこと
地域連携	○佐藤敏行, 弘中美紀, 佐守謙一, 遠藤直, 今井裕貴
授業改善	○岡田弘秀, 武部知之, 柳井典子, 渡辺賢一, 豊池律治
ICT活用	○広沢正年, 南光礼子, 木下淳之, 河内昭弘, 犬飼加菜子
進路指導研究	○坂本由美子, 三澤啓二, 原田泰志, 成田恵子, 足立茂行
部活動活性化	○臼井正徳, 西崎文貴, 板持寿明, 高木康正, 山崎弘一
道徳教育研究	○吉田信, 難波二郎, 尾崎栄子

※「教員組織活性化」「学力向上」分野は希望が出なかったため、はずしました。

※プロジェクトチームの人数調整のため、何人かの先生に第2希望に回っていただきました。

活動日程

	5/25 (中間考査3日め)		2学期中間考査中	2学期末	～以降
チーム所属調整 (各3～5人)	各プロジェクトチームの活動計画作成	実質的な活動	中間報告会	成果発表会	活動の継続

■プロジェクトチーム・活動計画作成

- 日時 2009年5月25日(火) (中間考査3日め) 13:30～ (1時間程度)
- 場所 第5セミナールーム
- 内容 各プロジェクトの活動計画表作成
 - ①年間の活動計画
 - ②具体的な活動内容
 - ③プロジェクトのゴール(成果)
 - ④予算(必要ならば)

※「コーチング」の考え方を生かして、生徒の意欲・活動を引き出すような取り組みをめざしてください。

※アクティブ予算: 委託料75万, 旅費26万, 需用費20万, 報償費9万, 役務費3万



※「進路指導研究」「地域連携」「ICT活用」「部活動活性化」チームは別の日時でこの会を開きます。



アクティブ・プロジェクト 始動!

◆ コーチング

メンバー	藤井純子, 宮原芳郎, 山田京子, 小寺敦子
活動内容	①H19～20のコーチング研修のまとめと総括(9月末までに) ②コーチング技法を用いたケーススタディ(6月中): 授業・HR・小論文指導等 ③コーチング研修講座への参加(短期集中) ④H21 コーチング研修の実施(7月)(?)
ゴール	①コーチング技法を取り入れた指導法の習得 ②活動内容①～③のまとめ
予算	参考書研修費用旅費

◆ 進路コーチ

メンバー	野崎武彦, 山川喜己, 渡辺隆人, 藤本隆司, 石井まこと
活動内容	①現在の進路コーチについてのアンケート(夏休みまで) ②進路コーチをするときに必要なものを考える(個人カルテ, データベース利用) ③アンケート結果の分析(夏休み)
ゴール	
予算	

◆ 進路指導研究

メンバー	坂本由美子, 三澤啓二, 原田泰志, 成田恵子, 足立茂行
活動内容	①現在の進路関係の行事と取り組みについて問題点を考える。(夏休み中) ②現行の行事にとらわれず、学年ごとに生徒の進路意識を高める仕掛けを考える。(夏休み中) ③3年間を見通した本校の進路指導計画を完成させる。(2学期末)
ゴール	3年間を見通した本校の進路指導計画を完成させる。
予算	研修会があれば、参加する。

◆ 部活動活性化

メンバー	臼井正徳, 西崎文貴, 板持寿明, 高木康正, 山崎弘一
活動内容	①地元中学校との合同練習: 県のトップアスリート事業の活用, 生徒間の交流, 教員間の交流, 互いの技術向上 (7月～夏休みをうまく利用して。オープンスクールで実施も検討) ②部活動PR: 活動戦績の新聞・ポスターを作成し, 中学校へ配布。 笠商文化祭で「部活動紹介コーナー」を設置 ③顧問が部活動に出れる環境作り・スキルアップ: 「部活動の日」設定
ゴール	一人でも多くの中学生が笠商の部活動に魅力を感じ, 多くの受検生を期待する。 技術向上に取り組み, 県だけでなく全国へと活躍できる部活動をめざす。

◆ 地域連携

メンバー	佐藤敏行, 弘中美紀, 佐守謙一, 遠藤直, 今井裕貴
活動内容	<p>①笠SHOP:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中に, イオン倉敷店にて「笠商ブース」出店 ・8/30・「笠商産ば〜カーニバル」参加 ・文化祭や地域イベントへ参加 <p>②文化祭: 地域特産品市, フリーマーケット出店</p> <p>③夏休みの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子ふれあい教室 (小学校の自由研究含む) ・公開講座 (パソコン簿記, 英会話) <p>④ボランティア活動: 学校周辺・駅の清掃</p> <p>⑤その他: 部活動で中学校・地域との交流 (テニス・バドミントン・ダンスなど)</p>
ゴール	<p>①地域連携による地域貢献, 地域理解を深める。</p> <p>②笠商を地域に広く理解してもらう。</p> <p>③中学生をはじめ地域に笠商をPRする。</p>
予算	ハッピー20枚, 笠商のぼり5~10本

◆ 授業改善

メンバー	岡田弘秀, 武部知之, 柳井典子, 渡辺賢一, 豊池律治
活動内容	<p>①授業評価アンケート: 内容, 取り方, 分析の仕方について研究する。</p> <p>②授業公開:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公開授業一覧表」の作成して, 授業参観を呼びかける。 ・校内ネットワーク上に「授業参観掲示板」を作成し, 授業者は見学のポイント (見てほしい点を書き込み, 見学者は参観して良かった点のみを書き込む (改善点は口頭で伝える)) ・プロジェクトチームで, 各授業の良い点を研究し, 「生徒を引きつけ, 分かる授業」のためのワンポイント集を作成する。
ゴール	『生徒を引きつけ, 分かる授業のためのワンポイント集』作成

◆ ICT活用

メンバー	広沢正年, 南光礼子, 木下淳之, 河内昭弘, 犬飼加菜子
活動内容	<p>①ソフトの研修 (1学期末)</p> <p>②教材の作成 (9月末までに)</p> <p>③教材を使用した授業の実施 (11月)</p>
ゴール	PCを活用できる教材の完成
予算	参考書

◆ 道徳教育研究

メンバー	吉田信, 難波二郎, 尾崎栄子
活動内容	<p>①2学期中間考査をめぐりに平成21年度道徳教育全体計画作成</p> <p>②並行して平成21年度道徳教育年間指導計画作成</p> <p>③「渋沢栄一」の商道徳を取り入れた教材作成 (2学期末の成果発表会)</p>
ゴール	<p>①平成21年度道徳教育全体計画作成</p> <p>②平成21年度道徳教育年間指導計画作成</p> <p>③玄関にある額「渋沢栄一」の商道徳を取り入れた教材作成</p> <p>④将来的には生徒と教員と地域と連携したボランティア活動の実践</p>
予算	道徳教育の先進校があれば是非視察したい



1学期末のAHS研修会のご案内

「学力向上アクティブハイスクール研究事業」の最終年になりました。今年度は「プロジェクトチームでの取り組み」によって、学校の教育活動全般の活性化（アクティビティ）を図っていくことにしています。また、3年間の取り組みのまとめをしていきます。

テーマ『アクティブな生徒・アクティブな教師・アクティブな学校』

※2年間の取り組みを継続しつつ、学校の教育活動全般にわたっての活性化を図る。

- コーチング（藤井・宮原・山田・小寺）
- 進路コーチ（野崎・山川・渡辺隆・藤本・石井）
- 進路指導（坂本・三澤・原田・成田・足立）
- 部活活性化（臼井・西崎・板持・高木・山崎）
- 地域連携（佐藤・弘中・佐守・遠藤・今井）
- 授業改善（岡田・武部・柳井・渡辺・豊池）
- ICT活用（広沢・南光・木下・河内・犬飼）
- 道徳教育研究（吉田・難波・尾崎）

■ 職員研修 「国際学力調査 (PISA・IEA) を読む」

日時	2008年 7月8日(水) 14:00~16:00	※1学期期末考査・2日目の午後
場所	第5セミナールーム	
対象	昨年度この研修に参加されていない方	
内容	中一夫氏作成の『学力低下の真相』をテキストに、戦後の学習指導要領の大まかな流れを理解しながら、「国際学力調査」の結果をグラフから読みとり、「学力低下」の問題を考える。(採用試験にも役立つか…)	

■ コーチング職員研修 「学習コーチング」

日時	2008年 7月 _____ 日() : _____ ~ _____ :
場所	吸江会館・多目的ホール
対象	全教職員
講師	未定 (現在、交渉中です)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コーチングを学習場面に生かす。 ・進学・就職試験に向けてのコーチング。



『国際学力調査を読む』研修会を開きました

「国際学力調査 (PISA・TIMSS) を読む」と題し、今年新しく来られた先生方を対象として、7月8日(水)に研修会を開きました。中間テスト中のお忙しい中、10名の参加をいただきました。中一夫氏の『学力低下の真相』をテキストにして、40分×2コマの授業形式で実施しました。

第1部は「〈学力低下〉のウソと真実」と題するもので、PISA (学習達成度調査)とTIMSS (国際数学・理科調査)の結果から、マスコミで大きく報道された「学力低下」が本当なのかを見ていきました。新聞に載ったグラフは、元のグラフの一部を切り取って、ことさらに学力低下を強調しようとしたものでした。どちらの調査も元のグラフを見ると、「日本はこれだけの人口をかかえて、高い学力を保っている」ということが明らかでした。

になった時にははじめなほどに消えてしまっていました。「学力」が意味があるのは受験のときだけ…ということでは、教育の成果があったとは言えません。

■ 研修会の評価 (5段階評価)

1)今日の研修は楽しかった →平均 **4.6**, 5&4=100%

5 4 . . . (3~1はなし)

2)内容がよく理解できた →平均 **4.8**, 5&4=100%

5 4 . (3~1はなし)

■ 感想から

◆すべての資料を自分の目で確認する姿勢が必要だと思いました。国際調査の回答は、日本人の謙虚さも影響している気がします。教師としての責任も感じます。

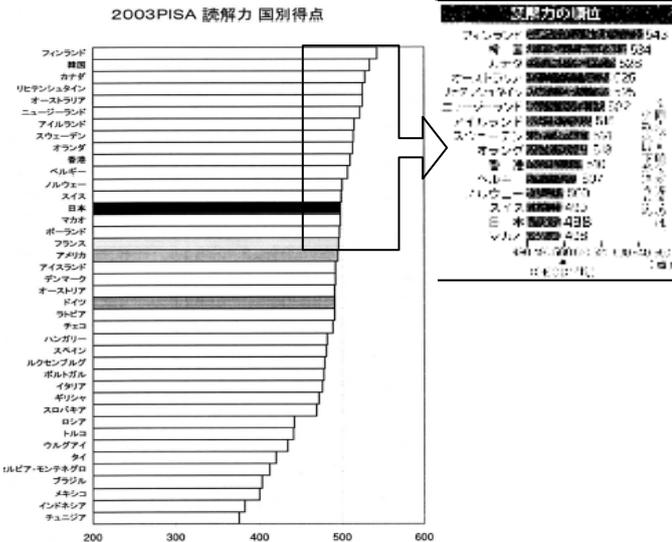
◆「人間はなぜ学ぶか、なぜ勉強するのか」が最近の私のテーマだったのですが、今日の研修はかなり参考になりました。「楽しい授業とは？」の、特に『楽しい』の意味について、あわせて考えていきたいと思います。

◆ニュースなどで見聞きした内容と違って、一筋縄ではいかないことにショックを受けた。理科が楽しくない(英語ならともかく)という状態は、この上なく問題だと感じる。学校だけでどれだけできるかわからないが、とにかくにも「理科好き」を育てることに専念したいと思う。

◆子供たちの意欲や自信の無さは、まさに大人である私自身のことであると、わが身を振り返ることができました。また、データを客観的に読み解くことの大切さも知ることができました。授業する側としても、毎日の実践の中で、第3部の答えを見つけ出していきたいと改めて思います。ありがとうございました。

◆いろいろな角度からデータを分析することが大切であることがよくわかりました。第3部(*の研修会)が開かれることを希望します。生徒のモチベーションを高める工夫を、教員みんなで考えていきたいものです。

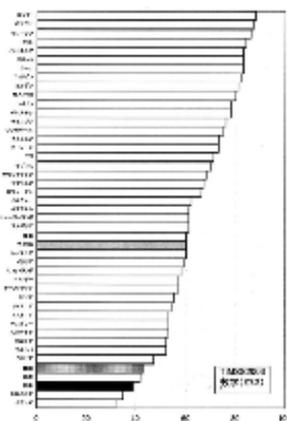
2003PISA 読解力 国別得点



第2部は「本当に低下しているものは？」と題して、学習への「意欲・積極性・自信」について、国際学力調査 (PISA・TIMSS) の結果を見るものでした。

高い学力を誇る日本の子どもたちの「意欲・積極性・自信」は、何とダントツで世界最下位でした！ ただ一つ上位にきたのは「数学に対する不安感」でした。あまりの悲惨な結果に、グラフを見るたびにため息が出るほどでした。

また、世界トップレベルを誇っていた子どもの学力が、大人



◆データも、違う見方・とらえ方をすることによって、まったく違うものになるということがよく分かった。「学力をつける」と一言で言っても、意欲や自信、将来へ向けての教育の成果と結びつけて考えると、なかなか答えの出ない大きな問題であると感じた。

◆昨年もショックを受けた思いがしましたが、今年もう一度研修を受けて、ふたたび「日本の教育の危機」と「教職に携わる私たちの責任」を痛感しました。何もしないでじっとしていることが、今の生活を守ることなのでしょうか。職場の仲間と論議し、ひとつずつでも笠商で何かに取り組んでいきたいと思えます。また、もうひとつ改めて考えさせられたのは、親や大人の姿勢が子供たちの姿だということです。意欲や積極性にしてもそうだし、道徳・マナーなどにしても同様に思えます。生徒に道徳を学ばせようとする前に、大人が道徳・マナーを守らなければと思いました。

◆マスコミを通して「学力低下」がそうなのかと思いましたが、「学力低下」ではなく「やる気」の部分や「自信」などの意識が低いのだと分りました。これから自分が授業をしていく中で工夫をして、生徒の意欲向上に向けて授業し、学力向上をはかっていきたいと思えます。

◆PISA・TIMSSという国際学力調査の内容を詳細に知ることができた。新聞等の資料を目にして、実際に日本の学力低下を信じて（理解して）いたが、そうではなかったことを知り、安心しました。またそれ以上に、「意欲・関心がない」という方が問題になっているということを知った。先生の進め方はたいへん参考になりました。とても有意義な時間でした。

◆私もマスコミに洗脳されていたらしく、今回の「2003年PISAの総合得点表」を見て、びっくりしてしまいました。日本はもっと下位の方なのでは…？と、ずっと思っていたので、データを見せてもらって、日本の学力低下はそれほど深刻ではないのだと分りました。ただ、「本当に低下しているものは？（第2部）」で、日本の学生は数学や理科に対して、こんなにもマイナスの意見を持っているのかと思ひ、そっちの方が深刻だと思ひました。今回の研修は、今後の教員生活に大きな影響を与えてくれるだろうと思ひます。ありがとうございました。



昨年・一昨年度に引き続いて、「授業評価アンケート」を実施しました。現在、集計・分析をしているところです。アンケート項目の平均点（100点換算）の3年間の推移を示したグラフを下に載せています。15のアンケート項目のうち他と比べて低いのが、

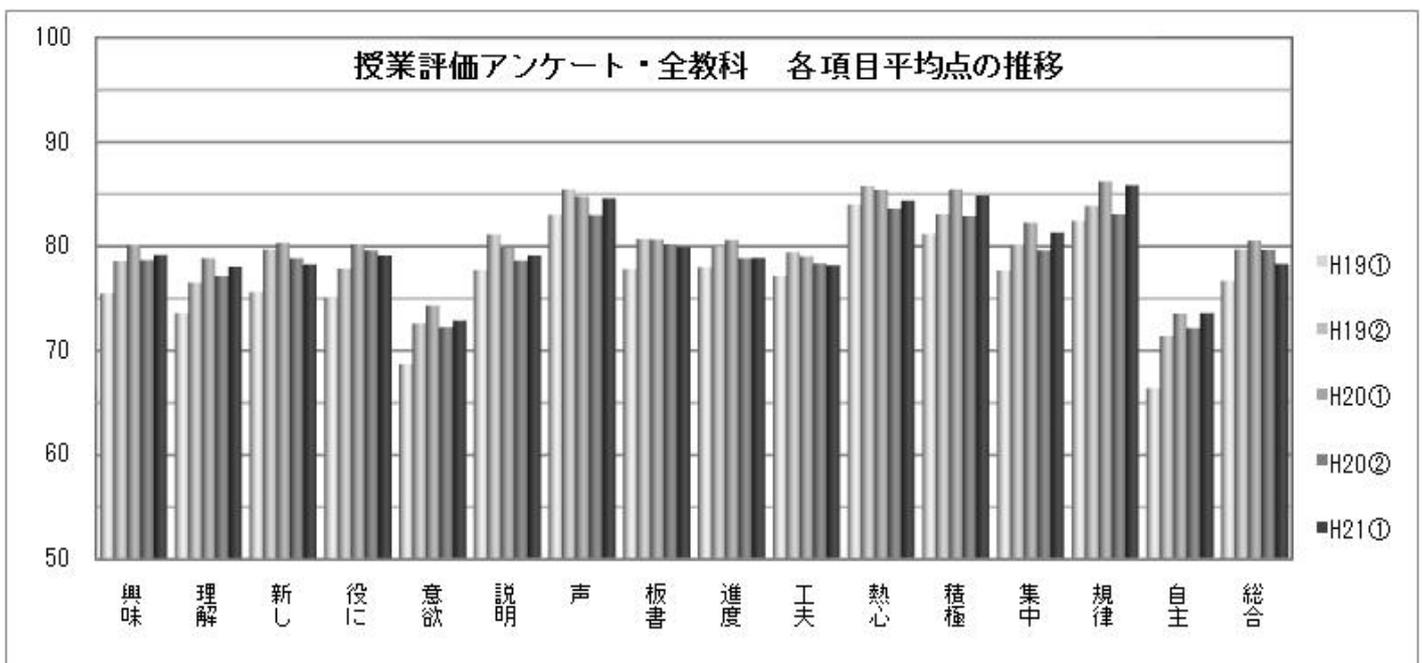
「学習意欲がわく授業だった」

「自主的に学習した」

の2項目です。笠商にとっても課題はこのあたりにあるのではないのでしょうか。

さて、『学力低下の真相』第3部は「成績と意欲の関係 ～求められる教育は？」という内容です。1部・2部の問題提起を受けて、「それではどうすればいいのか？」と考えるものです。

機会ができれば、第3部についての研修会を、そして、「笠商ではどのように取り組めばいいのか」を考える研修会を開きたいと思ひます。





『コーチング職員研修会（第1回）』を開きました

「アクティブハイスクール研究事業」最終年の「コーチング職員研修会・第1回」を開きました。補習・進路指導などで忙しい中、23名の参加をいただきました。

今年は「実際の進路指導に役立つコーチング」ということで、『学習コーチアカデミー』に研修会を委託しました。今回は《AO推薦入試と就職で実績を出すコーチング手法》というテーマで、首席研究員・佐々木宏さんが研修を進めてくださいました。

まず1コマめは、『コーチングについての基本的な考え方』についての復習で、「生徒に〈目標力〉をつけさせる」「そのための質問」についても話していただきました。コーチングの基本的な考え方は2年間勉強してきましたが、使っていないと忘れるもので、コーチングの復習自体が新鮮でした。2コマめは『AO推薦入試の支援法』ということで、「志望理由書の書き方」についての説明でした。「高校時代に〈物語〉のある生徒は希望の進路に進みやすくなる」ということで、「物語を作らせるコーチングの発問例」も示していただきました。3コマめは『意欲の低い生徒への支援』についてで、「やりたいことが見つからない生徒」には「ウェビング発想法」「合鍵発問」が有効で、「自分の長所が言えない生徒」には「弱みを強みに変える〈リフレーム質問〉」をと、具体的な質問法を教えていただきました。最後に『志望理由書の指導』を具体例を通して教えていただきました。



■ 研修会の5段階評価アンケート

平均

楽しかったか	5.....4...3..	4.4
理解できたか	5.....4.....3	4.3
役立ちそうか	5.....4.....3	4.4
学習を深めたい	5.....4.....3.1	4.0
講師の説明は	5.....4.....	4.7

■ いただいた感想から

◇とても勉強になりました。日々の仕事に活用していこうと思いました。ありがとうございました。

◇初めてコーチング研修を受けましたが、興味深く研修できました。今後、コーチングを取り入れて実践できたらと思います。ありがとうございました。

■ コーチングの実践についてアンケート

研修を受けてコーチング実践したか	たくさん実践	●●	2
	少し実践	●●●●●●●●●●	10
	実践してない	●	1
それはどんな場面か (複数回答)	三者懇談		0
	個人面談	●●●●●●	6
	声かけ	●●●●●●●●●●	9
	教科指導	●●●●●	4
	部活動指導	●●	2
	家族との交流	●●●	3
研修会がその役にたったか	同僚との交流	●	1
	とても役立つ	●●●●●	4
	役立つ	●●●●●●●	6
	どちらとも	●●	2
	役立つたない	●	1



◇少し疲れているときに長時間の研修で、眠かったけれど、すぐに役立つ内容だったので、生徒の進路指導に活かしたい。

◇具体的な生徒さんとの例をたくさん挙げてお話してくださったので、よく理解することができました。AO入試に挑戦したいという生徒の支援を、がんばってしようという気になりました。今日の研修は、即、実生活で活かせると思います。本当にありがとうございました。

◇具体例をタイミングよく織り交ぜて話して下さるのが、とても分かりやすい。

◇今年のコーチング研修が最後のチャンス!! 何としてもモノにしたい!! コーチング技法を身につけて、指導力や指導領域の幅を広げたい!!

◇今までの研修より、われわれ教員の実践に密着していると思った。「物語づくり」と「リフレーミング」は、今まで自分がやってきたことと同一だと思った(名前を付けてくれた)。今回の研修がいちばん私にじっくり(ぴったり)くるもので、実践できると思った。

◇今回の講師の説明は分かりやすかった。また、共感しやすかった。少々現実離れした面もあるが、実際に生徒とかかわっての事例で、具体的・実践的な話だったので、共感できる。講師の持っている雰囲気・人間性も

かなり影響すると思う。経験豊富で、実際に生徒と対応されているだけあって、説得力があった。

◇2年間コーチングを勉強してきましたが、使わないとすぐ忘れてしまいます。今回は「学習コーチング」という切り口で、実際の指導に使えるコーチングを学びました。日々使いながらコーチングを身につけたいと思います。ありがとうございました。



◇すばらしい内容でも、研修の時間が長すぎたため、印象は今一步でした。90分程度(以内)が望ましいと思いました。普通科進学校向きの内容のように感じました。

感想にもありますが、コーチング研修を受けることができるチャンスは今年が最後です(コーチング研修の費用を一人あたりに直すと、〇万円近くになります)。実践をしながら、コーチングを身につけていきたいと思います。

『学習コーチアカデミー』によるコーチング職員研修会は、もう1回、2学期中間考査中に予定しています。《教員・学校の「目標力」の養成》と題して、今回と同じく首席研究員・佐々木宏さんにきていただく予定です。



■ 2・3年生 リーダー研修会

笠岡商業高校が取り組んでいる「アクティブハイスクール研究事業」の一環として、7月27日(月)に、「生徒リーダー研修会」を実施しました。2学期の体育祭・文化祭をにらんで、生徒会総務、体育祭・文化祭実行委員、ブロック長・団長、そして2年生の店長・副店長さんら総勢29名に参加していただきました。講師は(株)西日本JATEXの有吉聖治さん・古垣みゆきさんをお願いしました。『リーダーとしての自覚を持つ／価値観の違いを越えて協力する』と題しての研修会でした。



まずワークショップ「Who are you?」で、お互いを知るところからスタート。次にメインのワークショップ「惑星脱出」をやりました。「生き残った14人から、ロケットに乗り込む6人を選ぶ」というものです。グループのリーダーを決めて、リーダーは全員に意見を出させながらグループとしての意見をまとめます。〈自分と違う意見を聞いたときにも否定せず、自分の意見も話しながら、コンセンサス(合意)を得ていく〉ということが大事でした。

3時間余りの研修に、みなさん積極的に取り組んでくれました。しかし、最後のまとめの話し合いでは「言いつばなしで、リーダーにおまかせ」というダレた雰囲気が広がって、有吉さんから「喝!」が入られました。みなさんがクラスやブロックで話し合うときにも、「リーダーとしての緊張感」を常に持っていなければなりませんね。

● 研修会の評価 (5段階)

(1) 楽しく学べたか → 平均 4.3, 5&4=92%

5 4 3 .

(2) ためになったか → 平均 4.4, 5&4=92%

5 4 3 .

● 研修会の感想から

【人の意見に共感をもつことが大事】

自分のことを相手に伝える難しさが改めてよく分かりました。普段の自分の説明の仕方でも、どれだけ相手が理解してくれているのかと気になりました。「相手の話を聞く」だけ指示されていたらあまり集中して聞けないけど、「相手の話を聞いて、それをふまえて意見を発表」となると、「メモを取ろう」とか「集中しよう」とか考えると思うので、相手の話を聞くときにはメモをとるといいと思った。人の意見に共感を持つことで、自分の意見の幅が少し広がったような気がしました。これから生徒会活動をしていく上で、「人の意見を聞くこと」「自分の意見を相手に伝えること」が多くなってくると思います。その中で、今日学んだことを生かして、いい学校を作れるようにしたいと思いました。(3年総務・Mさん)

【リーダーになれたことに感謝】

今日の研修会で、「自分は今までリーダーとしてちゃんとできていたのだろうか?」と考え直すことが多くありました。リーダーはどんなに苦しくてもみんなのことを一番に考えなければならないし、つらくてとても大変だと思う。しかし、全員にリーダーとして認められた時のうれしさはとても大きなものだし、絶対にやってよかったと思えると思います。リーダーというのは選ばれた人しかできないし、とても貴重な経験だと思う。だからリーダーになれたことに感謝して、常にプラス思考で頑張っていこうと思いました。これから二大行事がありますが、自分たちが先頭に立って、この二大行事を最高のものにしていきたいと思います!(3年総務・Mくん)

【リーダーとしての自覚】

リーダーとしての自覚を持つことが大切だと思った。リーダーは表に出て目立つものではなく、影でチームメートの意見を聞き、話し合い、そして援助するものだと思った。そして、そのすべての責任をリーダーがとる。リーダーはとても難しい仕事だと思う。でも、それをやりとげたら、自分にとってプラスになることがたくさんあるだろうと思います。これからは生徒会総務の一員として会長を支え、生徒会というチームで全体のリーダーとなり、学校を引っ張っていこうと思います。これから自分に与えられた役割に責任を持ち、それをすべてやり遂げる、そんなリーダーを目指して頑張ろうと思います。

(3年総務・Mさん)

【自分を知り、他人を知る】

今回の研修で、意見の違う人たちと議論してみて、「こういう考えもあるんだなー」と、とても参考になった。研修を通して、やはり〈自分の意見だけでなく、他人の意見も聞いて考えること〉が大切だと思った。そして〈納得させるような意見を言えるようになりたい〉とも思った。最初の自己紹介ゲームで、「自分のことは、分かるようで案外分らないものだなー」と思った。これからもっと自分を知ってあげたいなあとと思った。（3年応援・Yさん）

【責任を持って、最後までやりとげる】

自分がこれから文化祭実行委員としてみんなをまとめていくとき、自分は何をしなければいけないか、何が大切かということをとくさん学べました。全校のみんなを引っ張って行くから、自分がすること一つひとつに責任を持ち、最後までやり遂げようと思います。今日のリーダー研修会は、今後にとっても参考になったし、自分のためになりました。みんなから安心してリーダーを任せられる実行委員になれるよう、がんばりたいと思います。今日は本当にありがとうございました。（3年文実委・Eさん）



【みんなの意見を聞いてまとめる】

まず最初の自己紹介は、本当に自分のことを知っていないと紹介できないと思った。自分をアピールすることは難しいけど、でもそれができるようになれば、面接やこれからの人生に役立つと思う。そして、ぜんぜん話したことのない人とも話してみて、その人のことが少しでも分かったのがよかった。『惑星脱出』では、やっぱり一人一人が違う意見を持っているなあと考えた。みんなの意見を聞いたり、自分の意見を述べてみることは、とても大切なことだと思った。自分の意見を言ったとき、みんなが聞いてくれて納得しようとしてくれたので、うれしかった。これからリーダーとしてみんなをまとめていかないとはいけませんが、今日学んだことをしっかり生かしていきたいです。みんなの意見を聞き、尊重し、最終的には一つの大事なポイントにまとめることが大切だと思った。がんばろう!!（3年・Hさん）

【いろんな角度から物事を見る】

何についてでもいいのだけれど、みんなが真剣に話し合うと、やっぱり人それぞれ違った価値観を持っていて、同時にいろんな発見がある。一つの見方だけにこだわらず、さまざまな角度からものごとを見ることも、時には大切になってくる。リーダーはみんなについて知るべきだと感じた。

（2年店長・Kくん）

【リーダーの大変さを改めて実感】

リーダーとしての自覚が足りないまま今日を迎えてしまったと思いました。「リーダーなんだから…」という言葉に、とてもハッとさせられました。みんなを引っ張っていき、責任を負う…、なんて難しく大変なことなんだろうと、改めて実感しました。少数意見を尊重するには、まずその意見の良いところを見つける必要があるなと思いました。人数的に負けていても、自分の意見を大事にしている人を見つけてあげられるようなリーダーになりたいです。

（2年副店長・Oさん）

【今日学んだことを今後活かす】

この研修会に参加してみて、いかにリーダーとしての自覚が足りないかを痛感しました。今まで私がまとめてきた内容では納得しない人もいたのかと思うと、とても申し訳ないことをしたなと思いました。今日学んだことは、リーダーとしての自覚を持つことはもちろん、みんなをまとめるにはどのようにすればよいかや、リーダーだけが突っ走るのではなく、まとめることだけを考えるのでもなく、話を聞いて意見を尊重することの大切さなど、今後にとっても役立つことを教えていただきました。私は文化祭の副店長としての役割もあるけれど、部活動の部長としての役割も任せられています。これからたくさん大変なことがあるだろうけれど、大成功するように、今日のことを参考にして頑張っていきたいと思いました。今日は楽しかったです。ありがとうございました。（2年副店長・Fさん）





2 学期 の A H S の 予 定

「学力向上アクティブハイスクール研究事業」の最終年も後半に入りました。11月19日に「成果報告会」を開くことになりました。ご協力をよろしく申し上げます。また、各プロジェクトチームの取り組みも進めていってください。

■ 「アクティブ Project 中間報告会」

日 時	2009年10月13日(火) 14:00~15:30	※2学期中間考査・1日目の午後
場 所	吸江会館・多目的ホール	
対 象	全教職員	
内 容	・各プロジェクトチーム会議（これまでと今後の取り組み）20分 ・プロジェクト中間報告（5分×8Project）40分	

■ 「コーチング職員研修 ②」

日 時	2009年10月14日(水) 13:30~16:30	※2学期中間考査・2日目の午後
場 所	吸江会館・多目的ホール	
対 象	全教職員	
講 師	学習コーチアカデミー 佐々木 宏・首席研究員	
内 容	《教員・学校の「目標力」の養成》 先生方お一人お一人が目標に向かって意欲的に取り組むためには？ また教師集団がチームとして協同し、持てる力を最大限に発揮するためには、どうすればいいのか？	

※中間考査3日目には、「特別支援教育職員研修会」が14:00から予定されています。

■ 「アクティブハイスクール成果報告会」

日 時	2009年11月19日(木) 午後	
	※古城池高：11/6(金)，津山高：11/10(火)，勝山高：11/26(木)	
対 象	県下の高等学校に案内を出す	
内 容	①研究授業 コーチングの考え方を生かした授業（商業科，普通科）…1時間 ②研究報告 笠岡商業でのアクティブハイスクールの取組を報告 …1時間 ③研究協議 研究授業と研究報告について協議 …1時間	



アクティブ・プロジェクト 中間報告会

◆ コーチング

メンバー	藤井純子, 宮原芳郎, 山田京子, 横山一郎
活動経過	<p>コーチング技術の習得をめざし、受託業者を専任して職員研修、生徒はリーダー研修を中心に研修を行った。</p> <p>2007年度 テーマ「コーチング技術の導入への取り組み」(株)西日本ジャッテクス 〈教員研修〉3回 (生徒対象)1回</p> <p>2008年度 テーマ「コーチング技術の定着」(株)西日本ジャッテクス 〈教員研修〉3回 (生徒対象)1回</p> <p>2009年度 テーマ「学力向上のための学習コーチング」 学習コーチアカデミ 〈教員研修〉2回 (生徒対象)1回 (株)西日本ジャッテクス</p>
ゴール	<ul style="list-style-type: none"> ・コーチング技術の習得 ・ティーチングに加えてコーチング理論を教育活動の目標や目的に応じて取り入れる。 ・わかりやすいコーチングテキストの作成(事例、発問集)

◆ 進路コーチ

メンバー	野崎武彦, 山川喜己, 渡辺隆人, 藤本隆司, 石井まこと
活動経過	<p>①生徒アンケート結果より(夏休み前:3年生) 進路について考えるようになった 約90% 進路の参考になった 約70% ※アンケートから“進路コーチ”はある程度効果があると考えられる。特に、国公立大学進学を考えている生徒には大きな効果があると考えられる。進路コーチとして実施した内容で、役だったこととして、国公立大希望者は、進路別集会(68%)をあげている。</p> <p>②これから 進路コーチの形態を研究や内容の検討 (1年後半→2年→3年) 進路コーチと担任の連絡方法, 進路コーチ間の連携</p>
ゴール	<p>①笠商の進路コーチとしてよりよい形態を考える</p> <p>②進路コーチに必要なデータ・カルテ等必要なものを整備する</p>

◆ 進路指導研究

メンバー	坂本由美子, 三澤啓二, 原田泰志, 成田恵子, 足立茂行
活動経過	<p>①「進路指導関連イベントの企画運営」代々木ゼミナール教員研修に参加。</p> <p>②本年度の1～3年生の進路関係の行事の見直し。</p> <p>③本校の進路関係の平素からの取り組み(自学自習、小論文指導、補習、面接指導など)の状況を生徒の実態とニーズを考慮しながら、見直していく。</p>
ゴール	本校の進路指導関係の行事、取り組みの現状を把握し、改善すべき問題点を明らかにする。

◆ 部活動活性化

メンバー	臼井正徳, 西崎文貴, 板持寿明, 高木康正, 山崎弘一
活動経過	<p>①「トップアスリート派遣事業」として、岡山シーガルズに5日間、高校生だけでなく近隣の小学生・中学生も参加し、指導してもらう。交流も十分深められた。</p> <p>③本校文化祭の展示で「笠商部活動ミュージアム」と称し、各部の活動方針や内容、戦績、PR文などを紹介した。また、日頃の使用している物や、ユニホームなど数点展示をし、地域や保護者、中学生にしっかりアピールできた。</p>
ゴール	<p>①1人でも多くの中学生が本校に魅力を感じ、受検者数が増える。</p> <p>②全国で活躍する選手, チームを目指す。</p>

◆ 地域連携

メンバー	佐藤敏行, 弘中美紀, 佐守謙一, 遠藤直, 今井裕貴
活動経過	①夏休みに「親子ふれあい教室」を第1弾（日食観察会）・第2弾（笠商でエクササイズ・オリジナルのうちわを作ろう）を実施。50名以上の参加者あり。 ②オープンスクール事業で新たに3つの講座（POP広告・ラッピング・小切手手形の作成）を新設、中学校別の懇談会を実施し、505名の参加者があった。 ③文化祭での「地域特産品・フリーマーケット」実施。9/30にPRのためのパレードを実施し、文化祭への来校を呼びかけた。利益は昨年度よりも約2万円多い8万7千円。 ④10月24日（土）にオープンキャンパスを予定
ゴール	①地域の方に本校を知ってもらうとともに、本校をPR、地域に愛される学校を目指す。 ②本校の施設設備を利用してもらい地域に貢献する。 ③地域の知的財産・技術を本校で役立てる（講演会や講習会の実施）今後の課題である。
予算	ハッピー20枚, 笠商のぼり5~10本——→2年分のバザー収益金で購入予定

◆ 授業改善

メンバー	岡田弘秀, 武部知之, 柳井典子, 渡辺賢一, 豊池律治
活動経過	①授業評価アンケート：内容, 取り方, 分析の仕方について研究。 ②授業公開： ・「公開授業一覧表」の作成して, 教員相互の授業参観を行う。 ・校内ネットワーク上に「授業参観掲示板」を作成し, 授業者は見学のポイント（見てほしい点を書き込み, 見学者は参観して良かった点のみを書き込む（改善点は口頭で伝える） ③「授業改善シート」を個々に作成し, 各教科での検討集約を依頼。今後, 学校全体としての取り組みを検討していく。
ゴール	「授業参観掲示板」と「授業改善シート」をもとに, プロジェクトチームで「生徒を引きつけ, 分かる授業」のためのワンポイント集を作成する。

◆ ICT活用

メンバー	広沢正年, 南光礼子, 木下淳之, 河内昭弘, 犬飼加菜子
活動経過	①ソフトの研修（1学期末） ②教材の作成（9月末までに） ・パワーポイントやビデオスタジオを利用して教材を作成。 ③教材を使用した授業の実施（11月） ・教材を利用し授業を行い, 教材の追加・修正を行う。
ゴール	PCを活用できる教材の完成

◆ 道徳教育研究

メンバー	吉田信, 難波二郎, 尾崎栄子
活動経過	①中学校の「道徳教育全体計画表」を収集（中学校訪問） ②「心豊かなおかやまっ子育成研修会・第1日」参加 各高校で「道徳教育全体計画表」を作成することの指示 ③道徳教育授業プランの開発・収集 LHRプラン『道徳と経済～渋沢栄一に学ぶ～』作成中, LHRプラン『忘れられないごちそう』, LHRビデオ『ようこそ先輩～長淵剛・心から叫べ～』48分
ゴール	①笠商の「道徳教育全体計画表」を完成させる ②LHRプラン『道徳と経済～渋沢栄一に学ぶ～』の完成 ③LHRビデオ『ようこそ先輩～長淵剛・心から叫べ～』の実施と評価

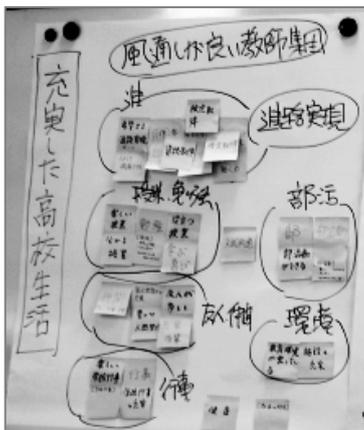
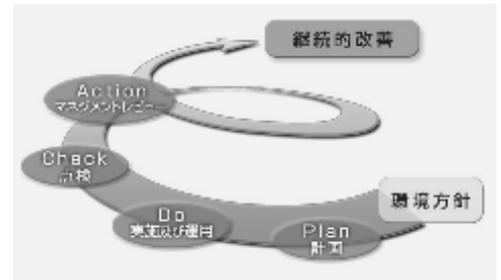


『コーチング職員研修会（第2回）』を開きました

「アクティブハイスクール研究事業」最終年の「コーチング職員研修会・第2回」を開きました。中間審査中で採点もしたいし、一息つきたくもある時だったのですが、前回より多い29名の参加をいただきました。

前回に引き続いて、〈学習コーチアカデミー〉の首席研究員・佐々木宏さんに講師をお願いしました。今回のテーマは《教員・学校の『目標力』の養成》でした。教師は生徒に「目標を立てて頑張れ!」というのですが、私たち自身の「目標に向かって前進している姿」を見せると、生徒に投げかける言葉の迫力が違います。

まず、『目標力』の中身として、①「目標を持つ力」(自分が持っている資源の整理)、②「計画力」(自分が使える時間の管理)、③「遂行力」(実践を振り返る)の3つがあることを言われました。特に、途中の「ふりかえり」をしないと、同じ目標を繰り返すことになり、発展はありません。また「目標力のある人・ない人」の違いを出し合いました。「目標力のある人」は、「明るい・積極的・粘り強い・生き生きしている」などのイメージがあります。



次に、笠商の学校目標「充実した高校生活」の具体的な中身について、グループ討議をして《進路実現・資格取得》《授業・勉強》《部活動》《友人・仲間》《行事》《環境》の6つのキーワードにまとめました。それぞれがどの程度達成できているのか、おおよさばに自己採点してみると… ※《風通しがよい教師集団》も含めて

- | | |
|------------------|-------------|
| 《風通しがよい教師集団》…60点 | 《部活動》…60点 |
| 《進路実現・資格取得》…70点 | 《友人・仲間》…60点 |
| 《授業・勉強》…60点 | 《行事》…70点 |

といった点数でした。キビシめの数字ですね。さらに、「この数字を上げるために具体的にどうすればいいか」、意見を出し合いました。

最後は、「個人としての目標を立てる」ことを、ペア・インタビューによって行いました。

- Q1. 先生の理想とする教師像の最低条件を3つあげてください。
 Q2. 3つの条件について、今それぞれ何点つけられますか。
 Q3. 今学期中に10点ずつ上げるには、どんなことをしますか。
 Q4. 今週末までできることは何ですか。
 Q5. 3つの項目が理想に近づくと教員生活はどうなりますか。
 Q6. 理想の状態をいつまでに達成しますか。

自分の教員生活を充実させたときの「イメージ」をはっきりと持って、そこに至るための「目標」をきちんと立てることが、前進のための第1歩となるでしょう。



